

茨城県教育財団文化財調査報告第353集

新^{しん}田^{でん}遺跡

那珂川沿岸農業水利事業
地内埋蔵文化財調査報告書

平成24年3月

農林水産省関東農政局
財団法人茨城県教育財団

序

茨城県では、那珂川沿岸の農業の発展を図るため農業水利の整備を推進しております。

その一環として、農林水産省関東農政局は、水戸市成沢地区において、成沢吐水槽建設事業を計画しました。しかしながら、その事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である新田遺跡が所在し、記録保存の措置を講ずる必要があるため、当財団が農林水産省関東農政局から埋蔵文化財発掘調査の委託を受け、平成21年5月から7月までの3か月間にわたりこれを実施しました。

本書は、新田遺跡の調査成果を収録したものです。学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である農林水産省関東農政局から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、水戸市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、深く感謝申し上げます。

平成24年3月

財団法人茨城県教育財団
理事長 鈴木欣一

例 言

- 1 本書は、農林水産省関東農政局の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成 21 年度に発掘調査を実施した、茨城県水戸市全隈町字新田 1366 番地の 7 はかに所在する新田遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。
調査 平成 21 年 5 月 1 日～7 月 31 日
整理 平成 23 年 4 月 1 日～6 月 31 日
- 3 発掘調査は、調査課長池田晃一のもと、以下の者が担当した。
首席調査員兼班長 成島一也
主任調査員 小野政美
調査員 前島直人
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長原信田正夫のもと、調査員前島直人が担当した。

凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅱ系座標に準拠し、X = + 47,040 m, Y = + 48,680 mの交点を基準点 (A 1a1) とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m 四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m 四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A, B, C…、西から東へ 1, 2, 3… とし、「A 1 区」「B 2 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a, b, c…、西から東へ 1, 2, 3… 0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1a1 区」、「B 2b2 区」のように呼称した。

2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 FP - 炉跡 PG - ビット群 SF - 道路跡 SI - 竪穴住居跡 SK - 土坑 TP - 陥し穴

遺物 DP - 土製品 M - 金属製品 Q - 石器・石製品 TP - 拓本記録土器

土層 K - 攪乱

3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。



4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

(1) 現存値は () を、推定値は [] を付して示した。計測値の単位は m, cm, kg, g で示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

6 竪穴住居跡の「主軸」は、炉を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸(径)方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N - 10° - E)。

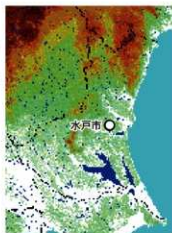
目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
概 要	1
第 1 章 調査経緯	3
第 1 節 調査に至る経緯	3
第 2 節 調査経過	3
第 2 章 位置と環境	4
第 1 節 地理的環境	4
第 2 節 歴史的環境	4
第 3 章 調査の成果	9
第 1 節 調査の概要	9
第 2 節 基本層序	9
第 3 節 遺構と遺物	11
1 縄文時代の遺構と遺物	11
(1) 竪穴住居跡	11
(2) 炉跡	16
(3) 陥し穴	22
(4) 土坑	29
2 その他の遺構と遺物	37
(1) 道路跡	37
(2) 土坑	38
(3) ビット群	41
(4) 遺構外出土遺物	42
第 4 節 まとめ	46
写真図版	PL 1～PL 8
抄 録	

新田遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

新田遺跡は、水戸市全隈町の北部、丘陵地の標高約110 m付近に立地し、調査区は南側に向かって谷津が落ち込む斜面地になっています。今回の調査は、那珂川沿岸農業水利事業に伴う吐水溝の建設用地内に当遺跡が存在することから、遺跡の内容を図や写真に記録するために、茨城県教育財団が実施しました。



調査の内容

2237.54㎡の面積を調査した結果、竪穴住居跡3軒（縄文時代）、炉跡7基（縄文時代）、陥し穴6基（縄文時代）、土坑42基（縄文時代21・時期不明21）、道路跡1条（時期不明）、ピット群1か所（時期不明）を確認しました。

主な遺物としては、縄文土器（深鉢・浅鉢・異形台付土器）、土師器（坏・



西側上空から見た新田遺跡

かめ すすき (甕), 須恵器 (坏), 石器・石製品 (鍬・スクレイパー・石棒・石剣カ・磨製石
 斧・打製石斧・凹石・磨石・耳飾), 剥片などが出土しています。



第2号住居跡完掘状況



第2号住居跡の出土土器とその他の出土石器



第5号炉跡完掘状況



チャートや瑪瑙・頁岩などの石材

調査の結果

今回の調査で、当遺跡は縄文時代早期から前期と中期から後期（約8000～3500年前）の大きく2時期に分けて住居等が存在していたことが分かりました。早期から晩期にかけては、陥し穴が2基を1単位として斜面地の縁辺部に直線的に配置され、炉跡は同じ等高線上にほぼ円形に配置されているなど、狩り場として利用されていたことが考えられます。中期から後期になると、竪穴住居跡を3軒と少ないながらも確認できたことから、生活の場として利用され、集落が営まれていたことが判明しました。この時期には近隣でも集落が営まれるようになっていきます。また、遺物では、石鍬や剥片が多数出土していることから、石器の製作を行っていた可能性が考えられます。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

農林水産省関東農政局那珂川沿岸農業水利事業所は、水戸市において那珂川沿岸農業水利事業を進めている。

平成19年1月25日、農林水産省関東農政局那珂川沿岸農業水利事業所長（以下、「那珂川沿岸事業所長」という。）は、水戸市教育委員会教育長に対して那珂川沿岸農業水利事業（成沢吐水槽建設）地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けて水戸市教育委員会は、平成19年8月28日から30日と平成20年7月28日から8月1日に試掘・確認調査を実施し、遺跡の所在を確認した。

平成19年9月5日、水戸市教育委員会は那珂川沿岸事業所長あてに、事業地内に新田遺跡が所在すること及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成19年9月10日、那珂川沿岸事業所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第94条に基づき、土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は現状保存が困難であることから記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、平成19年10月4日、那珂川沿岸事業所長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成20年11月17日、水戸市教育委員会教育長から、茨城県教育委員会教育長あてに那珂川沿岸水利事業（成沢吐水槽建設）に係る埋蔵文化財発掘調査の取扱いについて協議依頼があった。本事業は国営事業であり、通常の農業基盤整備事業とは別に受益者が特定されないことから、平成10年9月29日庁保記第75号文化庁次長通知「埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化等について」及び平成12年3月3日文第162号茨城県教育委員会教育長通知「埋蔵文化財として扱う範囲及び開発事業に伴う埋蔵文化財の取扱いに関する基準」のとおり、協議の結果、茨城県教育委員会が取り扱うこととした。

平成21年1月29日、那珂川沿岸事業所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、那珂川沿岸農業水利事業（成沢吐水槽建設）に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。平成21年2月23日、茨城県教育委員会教育長は、那珂川沿岸事業所長あてに新田遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、あわせて調査機関として、財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、那珂川沿岸事業所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成21年5月1日から7月31日まで発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

調査は、平成21年5月1日から7月31日までの3か月間にわたって実施した。その概要を表で記載する。

工程	期間	5月	6月	7月
調査準備 遺跡除確				
遺構調査				
遺物洗浄 写真整理				
補足調査 撤収				

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

新田遺跡は、茨城県水戸市全隈町字新田1366番地の7ほかに所在している。

水戸市は県のはほぼ中央部に位置している。市の地形は、西部が八溝山中央部の鶏足山塊に属する標高60～200mの丘陵地、中央部が茨城台地の北東部にあたる標高20～30mの水戸台地、北部の一部が標高30～40mの那珂台地、東部が北から東に流れる那珂川が形成した標高10m以下の沖積低地からなり、このうち台地部が最も広い地域を占めている。

西部に位置する第三紀の丘陵地は谷の構成で3地区に区別され、全隈町が北部に流れる田野川の浸食谷頭、谷津町が大足北部より開析された谷頭で、この両者の間は80mの鞍部を形成している。木葉下の谷は藤井川の支流によって浸食されたもので、これらの谷はいずれも小規模な盆地状をなしている。台地は、水戸台地は那珂川の支流である沢渡川、板川、逆川によって上市台地、見和台地、千波台地、吉田台地に分けられる。

丘陵地の地質は、古世代の鶏足層を基盤とし、下層から第三紀層の泥岩からなる水戸層、第四紀層の粘土や砂で構成される見和層、段丘礫層の上市層、灰白色粘土の常総粘土層、関東ローム層の順に堆積している。また、沖積低地部は河川堆積物である砂礫層が堆積し、場所によっては有機質の黒色泥や草炭類の堆積がみられる。

当遺跡は水戸市全隈町の北部、水戸市森林公園の敷地内の丘陵地の標高約110m付近に立地し、北側と南側に谷津が入組んでいる。調査区は、東側から西側に延びる斜面地の先端に位置し、南側に向かって谷津が落ち込む斜面地になっている。調査面積は2237.54㎡で、調査前の現況は森林である。

第2節 歴史的環境

当遺跡の所在する丘陵地や那珂川とその支流群によって開析された台地上には、旧石器時代から近世にかけての遺跡が数多く確認されている。ここでは、新田遺跡〈①〉と関連する主な遺跡を記述する。

旧石器時代の遺跡は、上入野台地の北、那珂川右岸の水戸市十万原付近の台地上にあるドウゼンクボ遺跡、二の沢遺跡、十万原遺跡から旧石器時代の石器が採集されている¹⁾。

縄文時代には、愛宕町遺跡、アラヤ遺跡、長者山遺跡、渡里町遺跡などが台地の縁辺部に立地し²⁾、早い時期から集落が形成されていたことがうかがえる。愛宕町遺跡では、定角磨製石斧をはじめ、中期の阿玉台式期に繁栄した角押文に模様が表示される文様構成をもつ土鍋が発見されている³⁾。また、アラヤ遺跡では、晩期の高床住居跡と思われる柱穴が確認されており⁴⁾、古くから人々の生活に適した場所であったことがうかがえる。その他、上入野台地上では中期の関根遺跡〈49〉と、同じくその西に位置する中期の後園遺跡〈4〉、後期の外ノ内・天神遺跡及び増井本郷遺跡が確認されている。さらに、周辺には十万原台地上に立地するドウゼンクボ遺跡、二の沢遺跡、ニガサワ遺跡、十万原遺跡、藤井町遺跡、清水台遺跡、南駒形遺跡をはじめ、横遺跡、成沢大塚遺跡、下宿遺跡〈8〉、馬場尻遺跡など那珂川右岸の台地上に多数の遺跡が確認されている。

当遺跡の南西に位置する金洗沢遺跡〈35〉では、住居跡3軒、袋状土坑を含めた土坑約100基が確認されている。遺物は中期の加曾利E式、後期の堀之内・加曾利B式、晩期の大洞BC式期の土器に加えて打製石斧・

石棒・敲石・磨石・石皿・石鉢などの石器、土偶・土板・耳栓などの土製品が出土している。とりわけ97点の土偶のうち加曽利B式の山形土偶が75点と多いことから、この集落は、土偶祭祀を司る呪術者集団の居住地であった性格が強いかかわれる⁵⁾。また、当遺跡と金洗沢遺跡の中間に位置する小坂遺跡(36)は、標高140.2m地点の雑木林にかつて存在していた集石跡で、縄文時代中期以降、礫を集めて埋葬遺構を造る那珂川沿岸の一般的風潮を含んだ遺跡といわれている⁶⁾。

弥生時代に入ると那珂川流域の台地縁辺部を中心に遺跡が確認されており、上市台地上には、後期の十王台式土器が出土している堀遺跡、西原遺跡、文京二丁目遺跡などが所在している。上入野台地では、飯富地区や十万原地区の那珂川右岸の台地縁辺部に遺跡が確認でき、中期の土器がドウゼンクボ遺跡で採集されている以外は、ボンボン遺跡、馬場尻遺跡から、十王台式の土器が採集されている程度である。

古墳時代になると集落は台地の中央部ばかりでなく、やや奥まった部分にも認められるようになる。また、古墳も時代と共に台地縁辺部から中央部に広がり、群をなすようになる。遺跡としては、愛宕山古墳群、西原古墳群、台渡里遺跡、向井原遺跡、仲根遺跡があげられ、特に愛宕山古墳群には、国指定史跡である愛宕山古墳が存在している。愛宕山古墳は、全長136.5mの大形前方後円墳であり、那賀国造の墓と目されている。また、台渡里遺跡では一辺75mと推定される方形の堀がめぐる豪族居館跡が発見されており⁷⁾、那珂川の堆積土による肥沃な土地での水田経営を行っていたものと思われる。

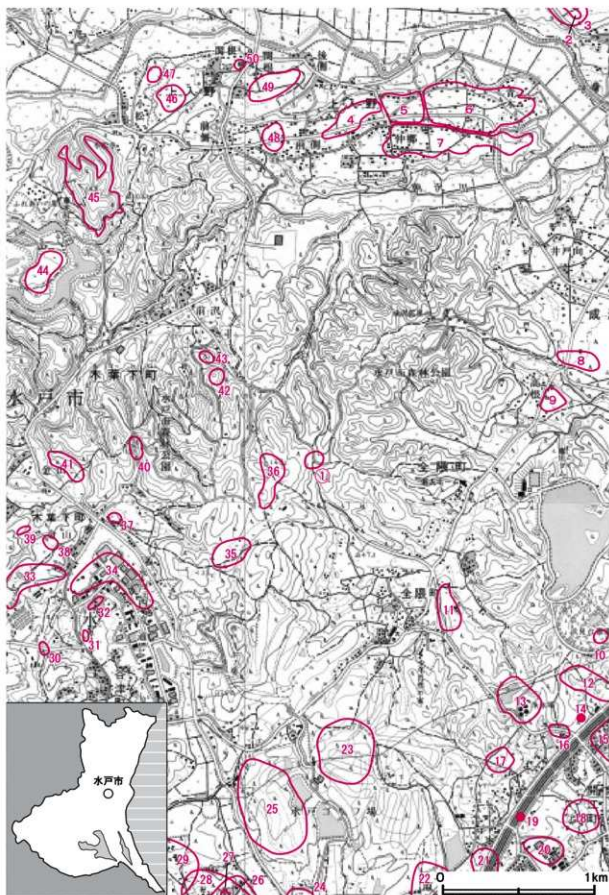
奈良・平安時代、本跡の当地域は那賀郡全領部に属している。周辺の主な遺跡としては、国指定史跡の台渡里廃寺があげられる。寺は那賀郡の「郡の寺」であり、寺の北側には那賀郡の郡衙の存在が想定されている。これの正倉院には長者山地区が比定されており、長者山遺跡を含めたその周辺には、アラヤ遺跡、渡里町遺跡、台渡里遺跡、西原遺跡、堀遺跡、文京二丁目遺跡などが確認されており、那珂郡衙及びその関連遺跡として捉えられている⁸⁾。

平安時代から中世にかけては、この地域は常陸大掾氏や那珂氏、佐竹氏の抗争の舞台となった。そのため、各氏の一族や臣下の城館が各所に造られた。当遺跡の東約2kmにある大部平太郎屋敷跡は、真佛寺の開祖で水戸城主佐竹季賢に仕えていた北条平太郎維芳の館跡といわれており⁹⁾、二重堀や土塁が確認されている。

※文中の()内の番号は、第1図及び表1中の該当遺跡番号と同じである。なお、本章は、財団報告第341集を基にし、若干加筆したものである。

註

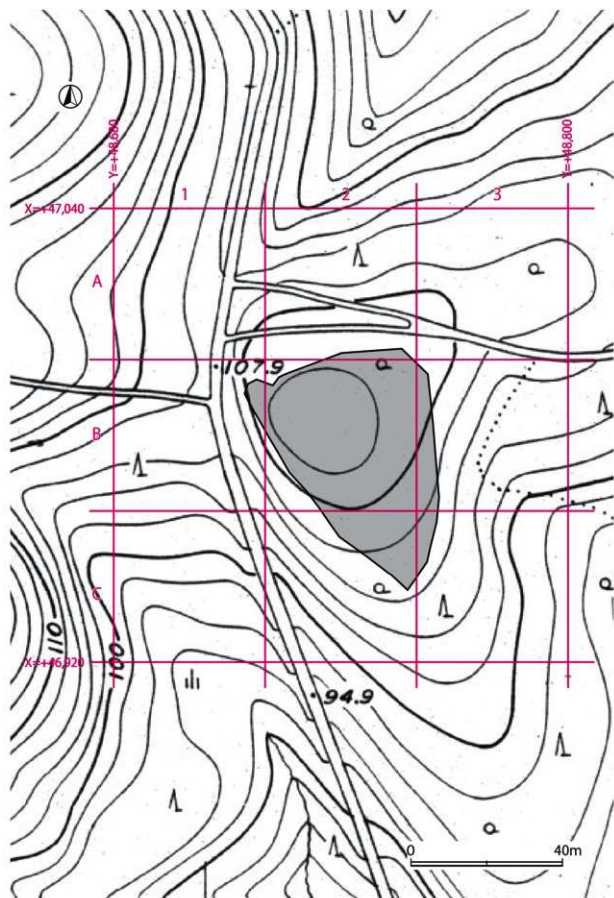
- 1) 池田晃一「主要地方道水戸茂木道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書1 上入野遺跡 青木遺跡 後側遺跡 前側遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第108集 1996年3月
- 2) 水戸市史編さん委員会「水戸市史 上巻」水戸市 1963年10月
- 3) 郡司良一「水戸市埋蔵文化財分布調査報告書(昭和58年度版)」水戸市教育委員会 1984年3月
- 4) 註2と同じ
- 5) 井上義安「水戸市埋蔵文化財分布調査報告書(平成10年度版)」水戸市教育委員会 1999年3月
- 6) 註5と同じ
- 7) 佐々木藤雄他「台渡里廃寺―市道常磐17号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)―」『水戸市埋蔵文化財報告書』第4集 水戸市教育委員会 2006年3月
- 8) 茨城県教育庁文化課編「茨城県遺跡地図」茨城県教育委員会 2001年3月
- 9) 市制100周年記念飯富実行委員会「市制百年委員会 飯富郷土誌」1989年3月



第1図 新田遺跡周辺遺跡分布図(国土地理院 25,000 分の 1「水戸」「石塚」「徳蔵」「笠間」)

表1 新田遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世			近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世
①	新田遺跡	○						26	三本松古墳群				○			
2	清水台古墳群				○			27	田島館跡						○	
3	清水台遺跡	○		○	○			28	柘巷遺跡		○	○	○	○		
4	後側遺跡	○	○	○	○	○		29	田島古墳群				○			
5	仲郷遺跡	○	○	○	○	○		30	打越窯跡					○		
6	青木遺跡	○		○	○	○	○	31	四又入窟跡群					○		
7	上入野遺跡	○	○	○	○	○		32	細田窯跡					○		
8	下宿遺跡	○		○				33	太鼓塚遺跡		○		○	○		
9	高根遺跡			○				34	木葉下窟跡群					○		
10	後山田遺跡	○		○				35	金洗沢遺跡		○					
11	永代トヤ遺跡	○		○	○			36	小坂遺跡		○					
12	山田遺跡	○	○	○				37	落合窯跡					○		
13	全隈権現台遺跡	○						38	三ヶ野窯跡群					○		
14	大久保古墳群			○				39	大ノ入窟跡群					○		
15	開江宿遺跡					○		40	細入窯跡					○		
16	大久保遺跡			○				41	堂の内茅場窯跡群					○		
17	一本松遺跡	○		○				42	大鍋遺跡					○		
18	金剛寺跡	○			○			43	小鍋遺跡		○		○			
19	峯山古墳			○				44	大平遺跡					○		
20	寺山遺跡	○		○				45	龍屋城跡							
21	毛勝谷原遺跡	○		○				46	鹿島前遺跡					○		
22	加倉井原遺跡			○				47	後原遺跡					○		
23	加倉井富士山遺跡	○	○	○				48	前側遺跡		○			○	○	
24	仲坪遺跡			○	○			49	関根遺跡		○		○	○	○	
25	加倉井古墳群	○	○	○				50	関根東遺跡		○		○			



第2図 新田遺跡調査区設定図（水戸市都市計画図 2,500分の1をもとに作成）

第3章 調査の結果

第1節 調査の概要

新田遺跡は、茨城県水戸市全隈町字新田1366番地の7ほかに所在している。全隈町は田野川が浸食した谷頭にあたり、東部が80m、西部が140m内外と標高が異なっている。当遺跡は、この丘陵地の東部、標高約110mの丘陵地に所在し、調査区は南側に向かって谷津が落ち込む斜面地に立地している。調査面積は2237.54㎡で、調査前の現況は森林である。

調査の結果、竪穴住居跡3軒（縄文時代）、炉跡7基（縄文時代）、陥し穴6基（縄文時代）、土坑42基（縄文時代21・時期不明21）、道路跡1条（時期不明）、ピット群1か所（時期不明）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に27箱出土している。主な出土遺物は、縄文土器（深鉢・浅鉢・異形台付土器）、土師器（坏・甕）、須恵器（坏）、石器・石製品（石鏃・磨製石斧・打製石斧・磨石・石棒・珠状耳飾）、剥片などである。

第2節 基本層序

テストピットは、調査区北部の側面（B2a3区）、頂点部（B2h5区）、斜面地東側（B3g2区）、斜面地南東側（C3e1区）の4か所に設定した。

第1層は黒褐色を呈する表土である。ローム粒子と炭化粒子を少量含み、粘性は普通で締まりは弱い。層厚は7～46cmである。

第2層は褐色を呈するソフトローム層への漸移層である。ローム粒子を中量含み、粘性・締まりともに普通である。層厚は5～20cmである。

第3層は褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに普通である。層厚は5～45cmである。

第4層はにぶい褐色を呈するハードローム層への漸移層である。鹿沼バミスと細礫を微量に含み、粘性・締まりともに普通である。層厚は10～34cmである。

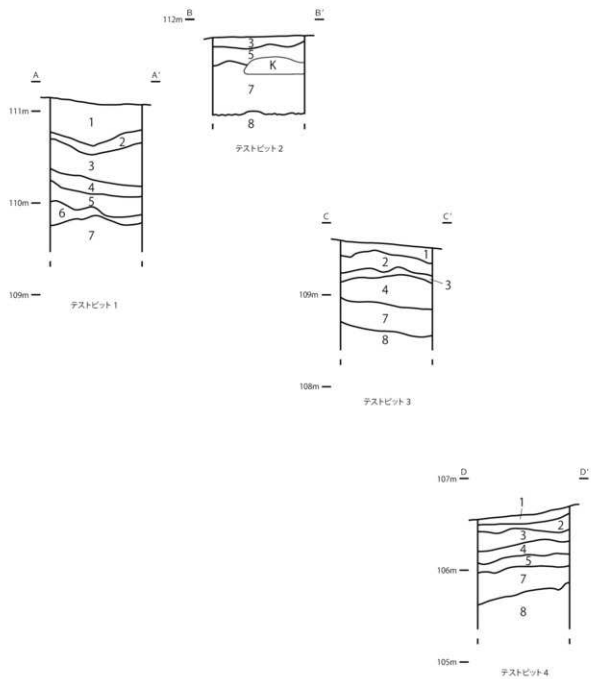
第5層はにぶい褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で締まりは強い。層厚は12～23cmである。

第6層はにぶい褐色を呈するハードローム層である。鹿沼バミスを中量含み、粘性・締まりともに普通である。層厚は5～25cmである。

第7層は明褐色を呈する粘土層である。細礫を少量含み、粘性・締まりともに強い。層厚は17～58cmである。

第8層は褐色を呈する粘土層である。細礫を多量に含み、粘性は普通で締まりは強い。層厚は、50cmまで確認したが、下層は礫層である。

遺構は、第3層の上面で確認した。



第3図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡3軒、炉跡7基、陥し穴6基、土坑21基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第1号住居跡（第4・5図）

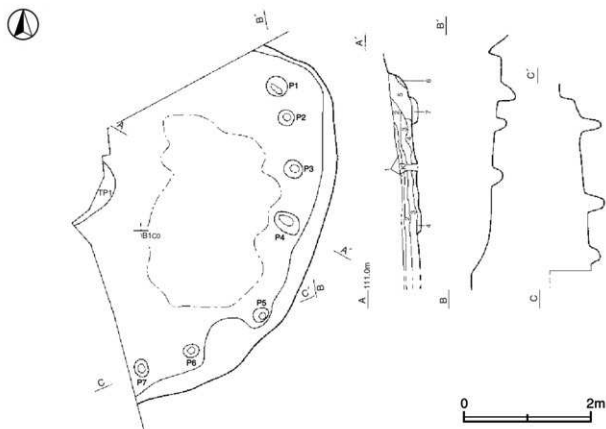
位置 調査区北西部のB1b0区、標高110.7mの斜面地の平坦部に位置している。

重複関係 第1号陥し穴と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 北部から南西部が調査区域外に延び、削平されているため、北東・南西軸は6.00m、北西・南東軸は3.65mしか確認できなかった。形状は円形もしくは楕円形と推定できる。壁高は20～32cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。

ピット 7か所。P1～P7は深さ10～22cmで、配置から支柱穴と考えられる。



第4図 第1号住居跡実測図

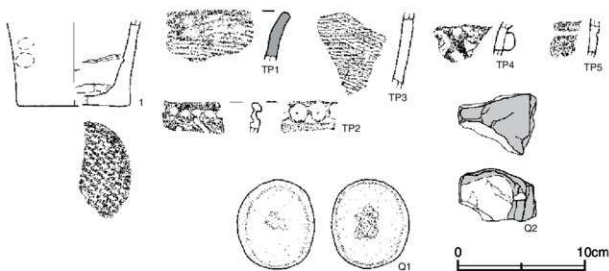
覆土 6層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況を示すことから自然堆積である。第7層はP4の覆土である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子極微量	5	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量、焼土粒子極微量	6	暗褐色	ローム粒子多量
3	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック少量			

遺物出土状況 縄文土器片65点(鉢、深鉢64)、石器1点(敲石)、剥片1点(チャート)、被熱痕のある礫3点(泥岩)、礫9点(チャート7、流紋岩2)が出土している。泥岩は火熱をうけて赤変している。TP5はP1の覆土中から、1・TP1～TP4・Q1・Q2は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期に比定できる。



第5図 第1号住居跡出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表 (第5図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	鉢	-	(68)	[88]	長石・石英・雲母・赤色粒子・煎状鉄質	明赤褐色	普通	体部下端無文 底部副代肌	覆土中	15% PL6

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP1	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい黄褐色	外面傾位の赤変文	覆土中	
TP2	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐色	円形刺突文	覆土中	PL7
TP3	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明褐色	外面傾位の沈線	覆土中	PL7
TP4	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐色	隆帯部刺突文	覆土中	PL7
TP5	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐色	横位沈線→刺突文	P1 覆土中	PL7

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	敲石	6.9	6.1	4.0	220	凝灰岩	敲打痕2か所	覆土中	
Q2	礫	6.2	4.9	4.2	128.4	泥岩	表面被熱	覆土中	

第2号住居跡 (第6図)

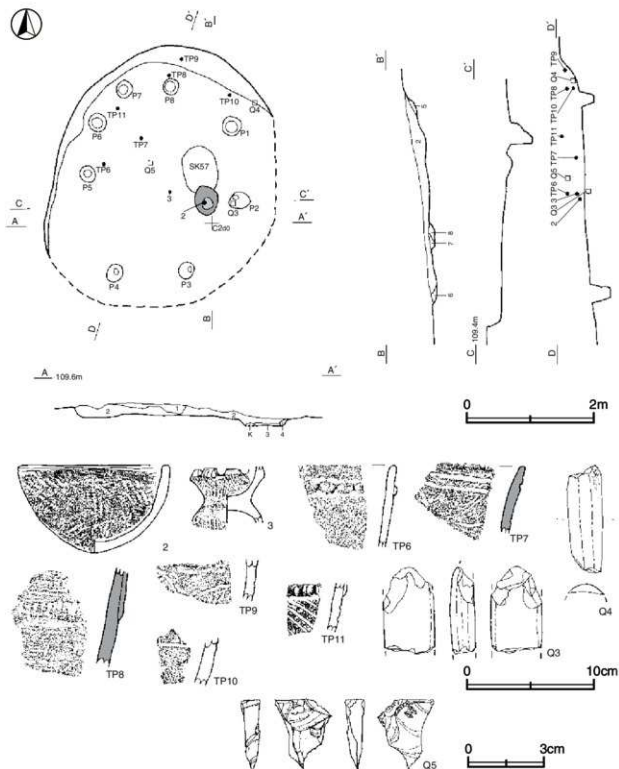
位置 調査区南部のC2c9区、標高109.2mの斜面地の緩斜面部に位置している。

重複関係 第57号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南部が削平されている。ピットの配置から、東西軸は3.60 m、南北軸は4.30 mの楕円形と推定できる。主軸方向はN-21°-Eである。壁高は6~27cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、踏み固められていない。

炉 中央部東寄りに付設された地床炉である。規模は長径46cm、短径40cmの楕円形である。炉床部は床面か



第6図 第2号住居跡・出土遺物実測図

ら10cmくはんでおり、炉床面は赤変硬化している。

ピット 8か所。P1～P8は深さ24～33cmで、配置から主柱穴と考えられる。

覆土 6層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況を示すことから自然堆積である。第7・8層は炉の覆土である。

土層解説

1 褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物極微量	5 暗褐色	ロームブロック・黒色土ブロック・炭化粒子微量
2 にぶい褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・黒色土ブロック・炭化粒子・細礫微量	6 明褐色	ロームブロック少量、細礫極微量
3 明褐色	ロームブロック少量、細礫微量	7 にぶい褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
4 にぶい褐色	ロームブロック少量、黒色土ブロック微量	8 赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片43点（深鉢41、浅鉢、異形台付土器）、石器2点（石剣カ、石棒）、剥片3点（瑪瑙）、礫10点（チャート8、泥岩2）が出土している。2は炉の炉床面から逆位の状態で出土している。Q3はP2内、Q4は北東部の床面から、3は中央部の、TP7・TP10は北部の覆土下層から、Q5は中央部、TP6・TP8・TP9・TP11は北部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期中葉に比定できる。

第2号住居跡出土遺物観察表（第6図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
2	縄文土器	浅鉢	116	69	-	赤色粒子・黒色粒子・長石・石英・雲母・自然磁鉄	にぶい褐色	普通	RLの単線縄文	炉火床面	90% PL6
3	縄文土器	異形台付土器	-	(45)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	孔4か所残存 隆帯貼付→隆帯部沈陥→体部縮位の沈陥	覆土下層	60% PL6

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP6	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	暗褐色	外面摩耗のため調整不明 縄文施文→隆帯貼付	覆土上層	PL7
TP7	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細礫	黒褐色	縄文施文→口縁部横位の沈陥	覆土下層	PL7
TP8	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細礫	明褐色	隆帯貼付→隆帯部キザミ	覆土上層	PL7
TP9	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	沈陥による区画内に縄文	覆土上層	PL7
TP10	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐色	沈陥による区画内に貝殻散在	覆土下層	PL7
TP11	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	隆帯貼付→斜位の沈陥	覆土上層	PL7

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q3	石剣カ	(69)	41	20	(768)	緑泥片岩	両端部欠損	P2内	PL8
Q4	石棒	(85)	(28)	(98)	(206)	流紋岩	斜位の擦痕	床面	PL8
Q5	剥片	27	22	08	298	瑪瑙	縦長剥片	覆土上層	

第3号住居跡（第7図）

位置 調査区北西部のB2b1区、標高1114mの斜面地の平坦部に位置している。

重複関係 第19号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 北西部が調査区域外に延びているため北東・南西軸は4.21m、北西・南東軸は2.85mしか確認できなかった。形状は円形もしくは楕円形と推定できる。壁高は7～21cmで、緩やかに傾斜して立ち上がっている。

床 平坦で、南壁際が踏み固められている。

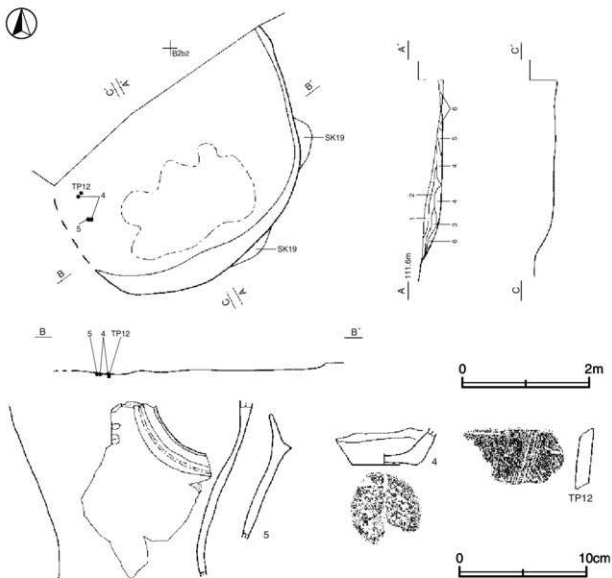
覆土 6層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況を示すことから自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量、炭化粒子極微量 | 4 黒 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量、鹿沼パミス極微量 |
| 2 黒 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 暗 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量 |
| 3 黒 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 暗 褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 19 点 (深鉢), 被熱痕のある礫 1 点 (泥岩) が出土している。4・5・TP12 は西側の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期末葉に比定できる。



第7図 第3号住居跡・出土遺物実測図

第3号住居跡出土遺物観察表 (第7図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
4	縄文土器	深鉢	-	(29)	52	長石・石英・雲母・針状黒物	明赤褐色	普通	無文	床面	20%
5	縄文土器	深鉢	-	(14.0)	-	長石・石英・黒色粒子・針状黒物	にぶい黄褐色	良好	波状口縁 隆帯貼付	床面	5% P16

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP12	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	4条の北線をクロス状に施文	床面	

表2 縄文時代住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸(m)	厚高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係 (古→新)
								土柱穴	出入口	ピット	炉				
1	B1b0	-	[円形・楕円形]	(6.00×3.65)	30~32	平坦	-	7	-	-	-	自然	縄文土器・石器・土片	後期	TP1と重複
2	C2a9	N-21°-E	[楕円形]	(4.30×3.60)	6~27	平坦	-	8	-	1	-	自然	縄文土器・石器・土片	後期中葉	SK57→本跡
3	B2b1	-	[円形・楕円形]	(4.21×2.85)	7~21	平坦	-	-	-	-	-	自然	縄文土器	中期末葉	SK19→本跡

(2) 炉跡

第1号炉跡 (第8図)

位置 調査区北東部のB 2c9区、標高1115mの斜面地の平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.50m、短径1.30mの不整楕円形で、長径方向はN-78°-Wである。深さは30cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦で、火熱を受けて赤変硬化している。

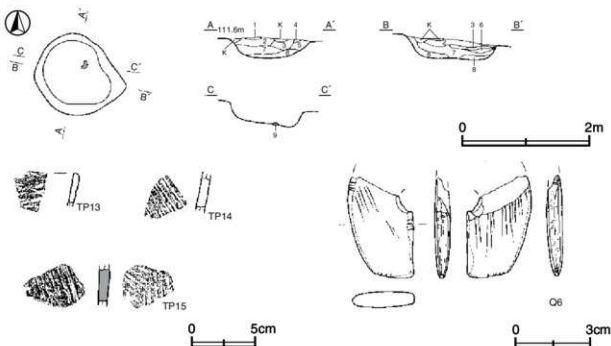
覆土 9層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックが各層に含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1	にぶ赤褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	5	明褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量
2	赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	6	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
3	褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量、炭化粒子微量	7	褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック微量
4	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	8	にぶ褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
			9	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片10点(深鉢)、石製品1点(袂状耳飾)、礫4点(チャート2、泥岩2)が出土している。TP13~TP15・Q6は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から早期に比定できる。



第8図 第1号炉跡・出土遺物実測図

第1号炉跡出土遺物観察表(第8図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP13	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	口縁部付近具散線押し引き文	覆土中	PL7
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	斜位の沈線文	覆土中	PL7
TP15	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子・磁鉄	橙	外・内面条痕文	覆土中	PL7

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 6	環状耳飾	(4.0)	(2.6)	0.6	(9.65)	滑石	穴部両側穿孔	覆土中	PL8

第2号炉跡(第9図)

位置 調査区北西部のB 2c2区、標高111.9 mの斜面地の平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.99 m、短径0.73 mの不整楕円形で、長径方向はN-13°-Wである。深さは35cmで、壁は緩やかに立ち上がっている。底面は平坦で、第8～10層が火熱を受けて硬化している。

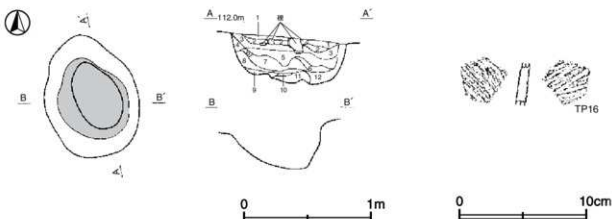
覆土 12層に分層できる。多くの層にロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1	暗赤褐色	炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量	8	褐色	ロームブロック・焼土粒子・鹿沼パミス少量、炭化粒子微量
2	褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、ロームブロック微量	9	暗赤褐色	ローム粒子・鹿沼パミス少量、焼土ブロック微量
3	暗褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量	10	黄褐色	鹿沼パミス多量、ローム粒子少量、焼土ブロック微量
4	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量	11	黄褐色	鹿沼パミス中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗赤褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	12	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、鹿沼パミス微量
6	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子・鹿沼パミス微量			
7	赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量			

遺物出土状況 縄文土器片6点(深鉢)、礫5点(花崗岩2、チャート、凝灰岩、流紋岩)が出土している。TP16は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期に比定できる。



第9図 第2号炉跡・出土遺物実測図

第2号炉跡出土遺物観察表(第9図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP16	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐色	外・内面条痕文	覆土中	

第3号炉跡（第10図）

位置 調査区東部のB 2e0区、標高1108mの斜面地の緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.08m、短径0.95mの楕円形で、長径方向はN-81°-Wである。深さは20cmで、壁は緩やかに立ち上がっている。底面は皿状で、火熱を受けて硬化している。

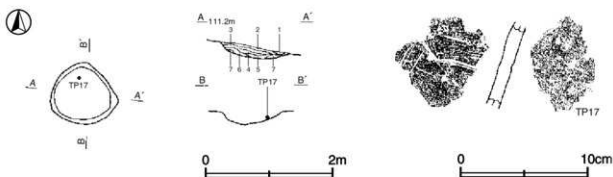
覆土 7層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況を示すことから自然堆積である。

土層解説

1	にぶい褐色	ロームブロック・炭化物少量	5	暗褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子・鹿沼バミス微量
2	にぶい褐色	ロームブロック少量	6	赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
3	にぶい褐色	ローム粒子中量、炭化物少量、焼土粒子微量	7	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・鹿沼バミス微量
4	暗褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量、鹿沼バミス微量			

遺物出土状況 縄文土器片1点（深鉢）が出土している。TP17は北部の底面から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期に比定できる。



第10図 第3号炉跡・出土遺物実測図

第3号炉跡出土遺物観察表（第10図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP17	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐色	外面3本の沈線文	底面	PL7

第4号炉跡（第11図）

位置 調査区北東部のB 2d0区、標高111.2mの斜面地の緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.75m、短径1.26mの不整楕円形で、長径方向はN-30°-Eである。深さは36cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦で、火熱を受けて赤変硬化している。

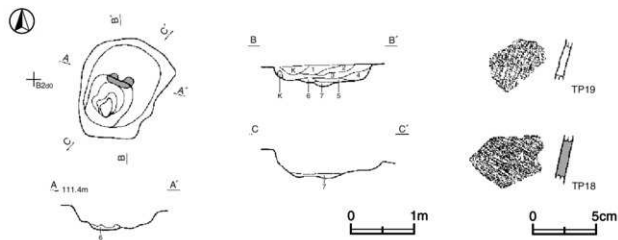
覆土 7層に分層できる。各層にロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1	褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子少量、黒色土ブロック・炭化粒子微量	5	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼バミス微量
2	褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量	6	暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック微量、炭化粒子極微量	7	暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・鹿沼バミス少量
4	黒褐色	ロームブロック・鹿沼バミス微量			

遺物出土状況 縄文土器片24点（深鉢）、罌3点（チャート）が出土している。TP18・TP19は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から早期末葉に比定できる。



第 11 図 第 4 号炉跡・出土遺物実測図

第 4 号炉跡出土遺物観察表 (第 11 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP18	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい黄褐色	斜位の条痕文	覆土中	PL7
TP19	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	RLの華路縄文	覆土中	PL7

第 5 号炉跡 (第 12・13 図)

位置 調査区中央部の B 2 g6 区、標高 1118 m の斜面地の平坦部に位置している。

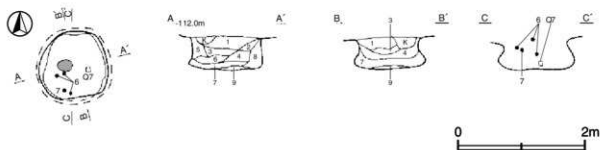
規模と形状 長径 1.08 m、短径 1.03 m の円形である。深さは 48 cm で、壁は内傾後に直立している。底面は平坦で、火熱を受けて赤変硬化している。

覆土 9 層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

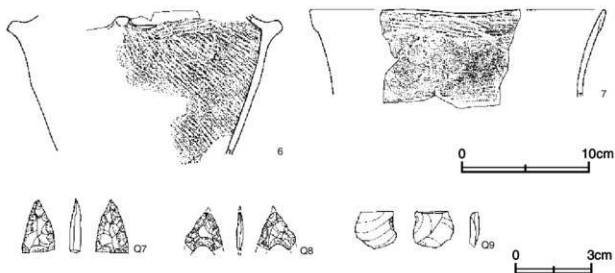
1	暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化物微量	6	褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
2	にぶい赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量	7	褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
3	暗赤褐色	炭化粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子少量	8	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4	褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック・黒色土ブロック微量	9	暗赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック少量、黒色土ブロック・炭化物微量
5	褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・黒色土ブロック・炭化粒子微量			

遺物出土状況 縄文土器片 46 点 (深鉢)、被熱痕のある礫 3 点 (泥岩)、礫 6 点 (チャート)、石器 2 点 (石鏃)、剥片 3 点 (チャート) が出土している。Q 7 は覆土下層、7 は覆土中層、6 は覆土上層から中層にかけて、Q 8・Q 9 は覆土中からそれぞれ出土している。



第 12 図 第 5 号炉跡実測図

所見 時期は、出土土器から晩期後葉に比定できる。



第13図 第5号炉跡出土遺物実測図

第5号炉跡出土遺物観察表(第13図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
6	縄文土器	深鉢	-	(11.1)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	交和陸帯帯付→斜位の糸灰文	覆土 上層～中層	30% PL6
7	縄文土器	深鉢	[23.1]	(6.8)	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	口縁部縁位の縄文	覆土中層	5% PL6

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q7	石鏃	2.1	1.3	0.5	0.98	チャート	両面押圧剥離	覆土下層	PL8
Q8	石鏃	(1.5)	(1.5)	0.3	(0.55)	チャート	両面押圧剥離 先端部・脚部欠損	覆土中	PL8
Q9	剥片	1.5	1.7	0.4	0.94	チャート	縦長剥片	覆土中	

第6号炉跡(第14図)

位置 調査区西部のB 2h5区、標高1115mの斜面地の緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.76m、短径1.50mの不整楕円形で、長径方向はN-61°-Eである。深さは81cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は凸凹があり、第5層が火熱を受けて赤変硬化している。

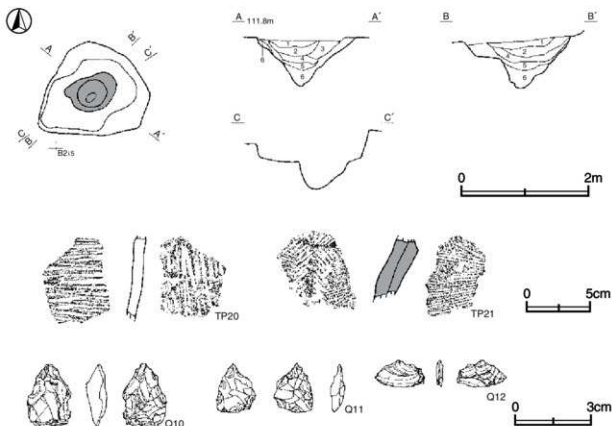
覆土 6層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況を示すことから自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------------|----------|--------------------------|
| 1 暗赤褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック、炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック、黒色土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 6 におい味褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック、黒色土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック、焼土ブロック、炭化粒子微量 | | |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物、焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片56点(深鉢)、石器2点(石鏃)、剥片18点(チャート17、黒曜石)、礫2点(花崗岩、凝灰岩)が出土している。TP20・TP21・Q10～Q12は、覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から早期に比定できる。



第14図 第6号炉跡・出土遺物実測図

第6号炉跡出土遺物観察表(第14図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴はか	出土位置	備考
TP20	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	に白い帯	外・内面糸状文	覆土中	PL7
TP21	縄文土器	深鉢	長石・石英・細礫・繊維	に白い帯	隆帯隆行→斜位の糸状文→隆帯部キザミ	覆土中	PL7

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 10	石鏃	2.5	1.7	0.8	3.26	チャート	両面押圧剥離	覆土中	PL8
Q 11	石鏃	1.9	1.5	0.6	1.38	チャート	両面押圧剥離	覆土中	
Q 12	湖片	1.0	1.9	0.3	0.59	黒曜石	横長湖片	覆土中	

第7号炉跡(第15図)

位置 調査区西部のB2自区、標高1122mの斜面地の平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.24m、短径1.75mの楕円形で、長径方向はN-78°-Wである。深さは36cmで、壁は緩やかに立ち上がっている。底面は皿状で、火熱を受けて硬化している。

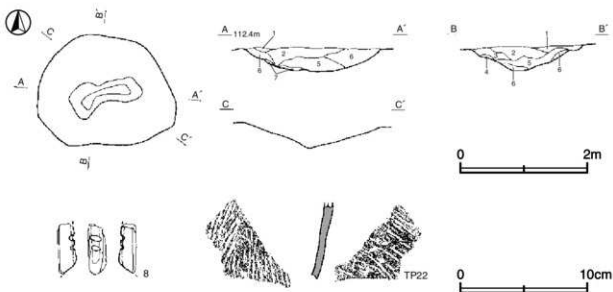
炉跡 7層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------|-------|-------------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック・黒色土ブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 2 に白・赤褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 褐色 | 黒色土ブロック少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 4 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片14点(深鉢)、被熱痕のある礫1点(泥岩)、礫5点(チャート3、ホルンフェルス、泥岩)が出土している。8・TP22は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から早期に比定できる。



第15図 第7号炉跡・出土遺物実測図

第7号炉跡出土遺物観察表(第15図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
8	縄文土器	深鉢	-	(37)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	隆部部キザ	覆土中	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP22	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	明黄褐色	外・内面条痕文	覆土中	PL7

表3 炉跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	B2e9	N-78°-W	不整楕円形	1.50×1.30	30	平坦	外傾	人為	縄文土器、石製品	
2	B2c2	N-13°-W	不整楕円形	0.99×0.73	35	平坦	縦斜	人為	縄文土器	
3	B2b0	N-81°-W	楕円形	1.08×0.95	20	皿状	縦斜	自然	縄文土器	
4	B2b0	N-30°-E	不整楕円形	1.75×1.26	36	平坦	外傾	人為	縄文土器	
5	B2g6	-	円形	1.08×1.03	48	平坦	内傾・直立	人為	縄文土器・石織・湖片	
6	B2h5	N-61°-E	不整楕円形	1.76×1.50	81	凸凹	外傾	自然	縄文土器・石織・湖片	
7	B2f4	N-78°-W	楕円形	2.24×1.75	36	皿状	縦斜	人為	縄文土器	

(3) 陥し穴

第1号陥し穴(第16図)

位置 調査区北西部のB1b9区、標高110.1mの斜面地縁辺の斜傾面部に位置している。

重複関係 第1号住居跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 北西部が調査区域外に延びているため、長径は1.33mで、短径は0.75mしか確認できなかった。形状は底部から楕円形と推定できる。長径方向はN-41°-Eである。深さは115cmで、短径方向の断面はフ

ラスコ状である。壁は内傾して立ち上がり、中間ではほぼ直立している。

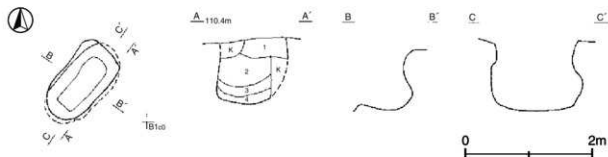
覆土 4層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況を示すことから自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・細礫少量、炭化粒子 | 3 黒 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒 色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 暗 褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片65点(深鉢)、被熱痕のある礫3点(泥岩)、礫9点(チャート7、流紋岩2)が出土している。

所見 遺物が細片のため図示できない。時期は、形状から縄文時代に比定できる。



第16図 第1号陥し穴実測図

第2号陥し穴 (第17・18図)

位置 調査区北西部のB2c1区、標高111.1mの斜面地縁辺の緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径2.15m、短径1.49mの不整楕円形で、長径方向はN-90°である。深さは85cmで、短径方向の断面はV字形である。壁は北壁側が緩やかに傾斜し、南壁側が直立している。

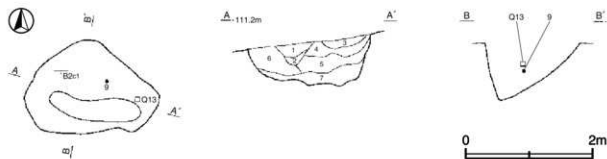
覆土 7層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況を示すことから自然堆積である。

土層解説

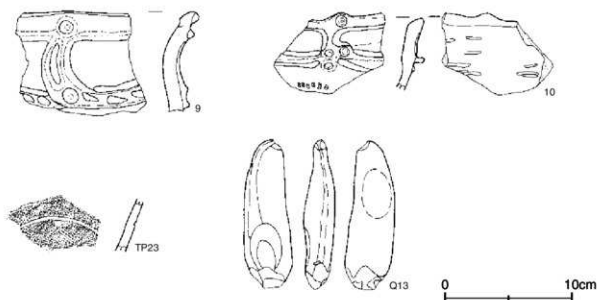
- | | | | |
|-------|----------------|--------|-----------------|
| 1 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 暗 褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 褐 色 | ロームブロック・炭化材微量 | 6 褐 色 | ロームブロック少量、炭化材微量 |
| 3 褐 色 | ロームブロック少量 | 7 灰 褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 褐 色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片39点(深鉢)、石器1点(敲石)、被熱痕のある礫1点(泥岩)、礫2点(チャート)が出土している。9・Q13は覆土中層から、10・TP23は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期初頭に比定できる。



第17図 第2号陥し穴実測図



第18図 第2号陥し穴出土遺物実測図

第2号陥し穴出土遺物観察表 (第18図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
9	縄文土器	深鉢	-	(7.9)	-	長石・石英・黒色 粒子・赤色粒子	橙	普通	隆帯部内形の刺突 下段隆帯部に列点文	覆土中層	2% PL6
10	縄文土器	深鉢	-	(6.3)	-	長石・石英・雲母・ 黒色粒子	に近い橙	良好	RLの単線縄文→隆帯輪付→内形の刺突	覆土中	2% PL6
番号	種別	器種	胎土		色調	文様の特徴ほか		出土位置	備考		
TP23	縄文土器	深鉢	長石・雲母		明赤褐	沈澱による区画内に縄文施文		覆土中	PL7		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
Q13	磁石	11.7	3.9	2.4	146.8	ホルンフェルス	敲打痕1か所	覆土中層	PL8		

第3号陥し穴 (第19図)

位置 調査区北東部のB 2 a0区、標高110.3mの斜面地縁辺の緩斜面部に位置している。

規模と形状 北部が調査区域外に延びているため、東西径は0.88mで、南北径は1.04mしか確認できなかった。形状は隅丸長方形と推定できる。長径方向はN-19°-Eである。深さは145cmで、短径方向の断面はU字形で、長径方向の断面はフラスコ形である。壁は内傾して立ち上がり、下部から外傾して立ち上がっている。

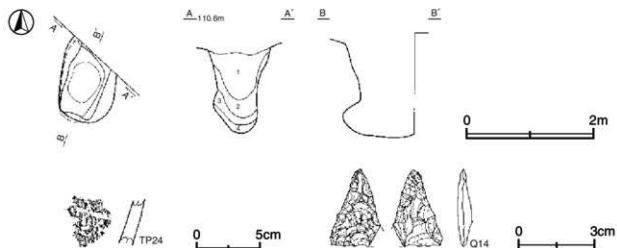
覆土 4層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況を示すことから自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・炭屑バミス微量 3 褐色 ローム粒子中量
2 褐色 ロームブロック微量 4 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片5点(深鉢)、石器1点(石鎌)と流れ込んだ土師器片1点(坏)が出土している。TP24・Q14は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から早期に比定できる。



第19図 第3号陥し穴・出土遺物実測図

第3号陥し穴出土遺物観察表 (第19図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP24	陶文土器	深鉢	長石・石英	赤褐色	外・内面糸文	覆土中	

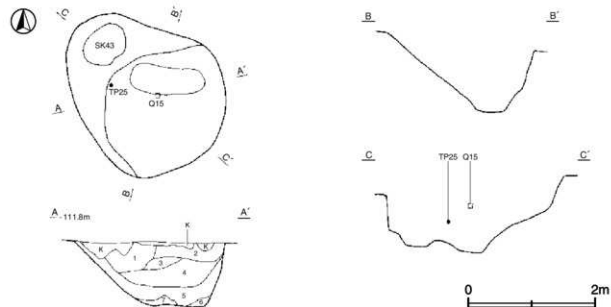
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 14	石鏃	3.0	(2.0)	0.6	(2.60)	チャート	両面押圧剥離 脚部欠損	覆土中	PL8

第4号陥し穴 (第20図)

位置 調査区北部のB 2 a5区、標高1114 mの斜面地縁辺の平坦部に位置している。

重複関係 第43号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 長径2.85 m、短径2.27 mの楕円形で、長径方向はN-47°-Wである。深さは110cmで、短径方向の断面はV字形である。壁は北壁側が外傾、南壁側が緩やかに立ち上がっている。



第20図 第4号陥し穴実測図

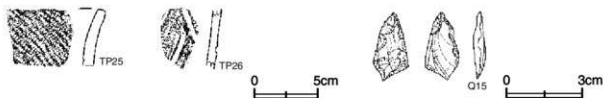
覆土 7層に分層できる。各層にロームブロックや黒色土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1	褐色	ロームブロック少量、黒色土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5	暗褐色	黒色土ブロック・ローム粒子少量
2	褐色	ロームブロック少量、黒色土ブロック微量	6	暗褐色	ローム粒子・重沼パミス少量、黒色土ブロック微量
3	褐色	ロームブロック・黒色土ブロック中量	7	明褐色	ローム粒子・重沼パミス少量、黒色土ブロック微量 (粘性・締まり強)
4	褐色	黒色土ブロック少量、ロームブロック微量			

遺物出土状況 縄文土器片19点(深鉢)、石器1点(石鏃[※])、礫6点(チャート2、花崗岩2、石英、凝灰岩)が出土している。TP25・Q15は覆土中層、TP26は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から晩期前葉に比定できる。



第21図 第4号陥し穴出土遺物実測図

第4号陥し穴出土遺物観察表(第21図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴はか	出土位置	備考
TP25	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐色	RLの半筋縄文	覆土中層	PL7
TP26	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐色	RLの半筋縄文→沈線文	覆土中	PL7

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q15	石鏃 [※]	27	1.4	0.5	1.68	瑪瑙	両面押圧剥離	覆土中層	

第5号陥し穴(第22図)

位置 調査区北部のB2a0区、標高110.6mの斜面地縁部の平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.65m、短径1.34mの不整形円形で、長径方向はN-27°-Eである。深さは92cmで、短径方向の断面は逆台形である。壁は外傾して立ち上がっている。

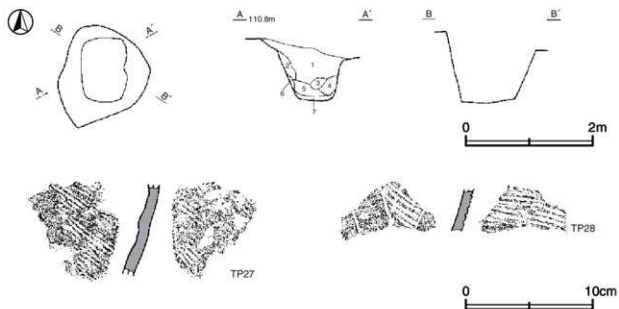
覆土 7層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック少量、黒色土ブロック微量
2	褐色	ロームブロック少量、黒色土ブロック・炭化粒子微量	6	褐色	ロームブロック少量
3	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	7	褐色	ロームブロック多量
4	褐色	ロームブロック・黒色土ブロック・重沼パミス微量			

遺物出土状況 縄文土器片18点(深鉢)、剥片2点(黒曜石・チャート)、礫4点(チャート)が出土している。TP27・TP28は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から早期に比定できる。



第22図 第5号陥し穴・出土遺物実測図

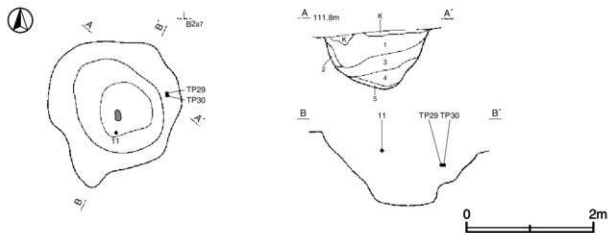
第5号陥し穴出土遺物観察表(第22図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP27	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子・磁種・磁種	にぶい黄橙	外面同位の条状文	覆土中	
TP28	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・黄色粒子・磁種	にぶい橙	外面沈線による区画内に沈線文 内面条状文	覆土中	PL7

第6号陥し穴(第23図)

位置 調査区北部のB 2 a6区、標高111.6mの斜面地縁部の平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.46m、短径2.10mの不整楕円形で、長径方向は $N-25^{\circ}-E$ である。深さは98cmで、短径方向の断面は逆台形である。壁は緩やかに立ち上がっている。



第23図 第6号陥し穴実測図

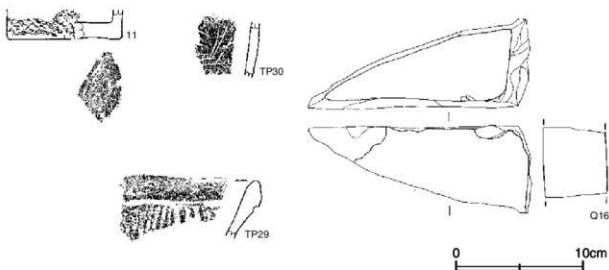
覆土 5層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況を示すことから自然堆積である。

土層解説

1	褐色	ロームブロック・黒色土ブロック少量	4	褐色	ロームブロック・黒色土ブロック少量、焼土粒子
2	褐色	ロームブロック微量			微量
3	暗褐色	ロームブロック少量、黒色土ブロック・焼土粒子	5	褐色	鹿沼バミス少量、ロームブロック微量
		微量			

遺物出土状況 縄文土器片13点(深鉢)、石製品1点(不明)、被熱痕のある礫5点(泥岩)、礫9点(チャート5、ホルンフェルス2、花崗岩2)、貝(カワニナカ)が出土している。TP29・TP30は東部の覆土中層、11は南部の覆土上層、Q16は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から早期に比定できる。



第24図 第6号陥し穴出土遺物実測図

第6号陥し穴出土遺物観察表(第24図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
11	縄文土器	深鉢	-	(23)	(8.8)	石英・雲母	橙	普通	LRの卑胎縄文	覆土上層	5%
番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考				
TP29	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	に濃い黄橙	沈線が沿う隆帯で区画 LRの卑胎縄文	覆土中層	PL7				
TP30	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	に濃い黄橙	条痕文	覆土中層					
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
Q16	不明	(17.6)	(7.0)	5.0	(87.2)	泥岩	上・下面研磨	覆土中			

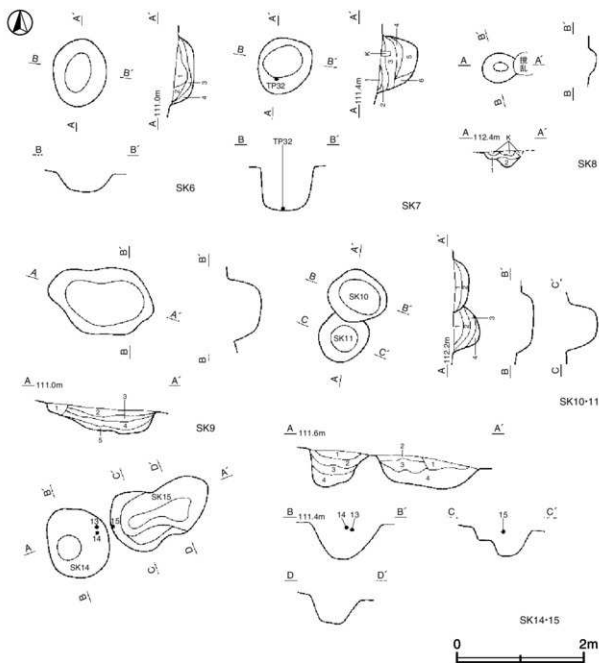
表4 陥し穴一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重要程度 (古→新)
				長径×短径(m)	深さ(m)					
1	B109	N-41°-E	[楕円形]	1.33 × (0.75)	115	平坦	内傾・直立	自然	縄文土器	SIIと重複
2	B2c1	N-90°	不整形円形	2.15 × 1.49	85	平坦	垂直・直立	自然	縄文土器・石器	
3	B2a0	N-19°-E	[隅丸長方形]	(1.94) × 0.88	145	重状	内傾・外傾	自然	縄文土器・石器	

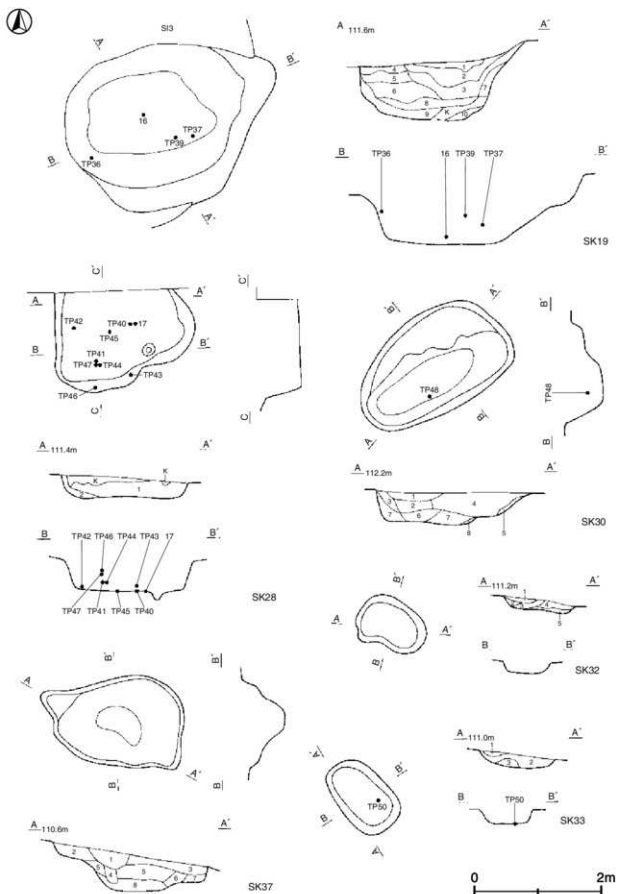
番号	位置	長短方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
4	B2a5	N - 47° - W	楕円形	2.85 × 2.27	110	平坦	縦斜・外傾	人為	縄文土器・石器	SK43と重複
5	B2a0	N - 27° - E	不整形円形	1.65 × 1.34	92	平坦	外傾	人為	縄文土器・銅片	
6	B2a6	N - 25° - E	不整形円形	2.66 × 2.10	98	平坦	縦斜	自然	縄文土器・石製品・貝	

(4) 土坑

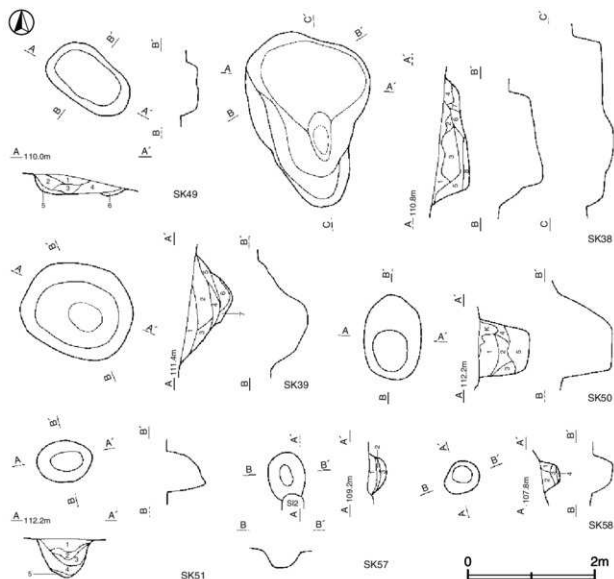
確認された土坑で性格不明のものは、実測図、拓影図、土層解説、遺物観察表、遺構一覧表で解説する。



第25図 縄文時代土坑実測図 (1)



第 26 図 縄文時代土坑実測図 (2)



第27図 縄文時代土坑実測図 (3)

第6号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗赤褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第7号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子極微量
- 4 にぶい褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
- 6 褐色 ロームブロック中量

第8号土坑土層解説

- 1 にぶい褐色 ロームブロック中量
- 2 明褐色 ロームブロック少量、細礫極微量

第9号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック少量 (粘性弱)
- 4 褐色 ロームブロック中量、細礫少量
- 5 褐色 ローム粒子少量 (粘性弱)

第10号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・黒色土ブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック少量、黒色土ブロック・鹿沼パミス微量

第11号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・黒色土ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・黒色土ブロック・鹿沼パミス少量
- 3 にぶい褐色 ローム粒子中量、鹿沼パミス微量
- 4 にぶい褐色 ローム粒子中量、細礫微量

第 14号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 4 黒 褐色 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量

第 15号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 2 暗 褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック少量、黒色土ブロック微量
- 4 明 褐色 ローム粒子多量、黒色土ブロック微量

第 19号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 炭化粒子中量、ロームブロック少量、鹿沼バミス微量
- 2 黒 褐色 炭化粒子中量、ロームブロック少量
- 3 黒 褐色 ロームブロック・鹿沼バミス微量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 褐色 ロームブロック中量、細礫少量
- 6 褐色 ロームブロック・細礫少量
- 7 褐色 ロームブロック少量
- 8 暗 褐色 細礫中量、ロームブロック少量、中礫微量
- 9 褐色 ローム粒子少量、鹿沼バミス微量
- 10 にぶい褐色 細礫少量、ロームブロック・鹿沼バミス微量

第 28号土坑土層解説

- 1 褐色 細礫多量、ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量、黒色土ブロック・炭化粒子微量

第 30号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・鹿沼バミス微量
- 2 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック極微量
- 4 暗 褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 6 褐色 ロームブロック・鹿沼バミス微量
- 7 褐色 ロームブロック・焼土粒子・鹿沼バミス微量
- 8 褐色 鹿沼バミス少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第 32号土坑土層解説

- 1 にぶい褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量
- 2 明赤褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 赤 褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 黒 褐色 炭化物中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 5 橙 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第 33号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第 37号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 細礫多量、ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック少量(締まり弱)
- 4 暗 褐色 細礫多量、ロームブロック中量
- 5 褐色 ロームブロック・礫少量
- 6 褐色 ロームブロック・細礫少量
- 7 褐色 ローム粒子少量
- 8 褐色 ロームブロック少量

第 38号土坑土層解説

- 1 灰 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 にぶい褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 橙 色 ローム粒子中量、鹿沼バミス少量
- 5 褐色 ローム粒子・黒色土粒子少量
- 6 明黄褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量
- 7 黄 褐色 鹿沼バミス中量、ローム粒子微量
- 8 にぶい褐色 ローム粒子中量

第 39号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・黒色土ブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック・黒色土ブロック少量
- 5 にぶい褐色 ロームブロック中量
- 6 褐色 ロームブロック少量、黒色土ブロック微量
- 7 明 褐色 ロームブロック多量

第 49号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量(締まり弱)
- 4 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量
- 5 灰 褐色 ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子中量

第 50号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・黒色土ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック・黒色土ブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック・黒色土ブロック微量
- 4 暗 褐色 ローム粒子少量、黒色土ブロック微量
- 5 暗 褐色 ロームブロック・細礫微量

第 51号土坑土層解説

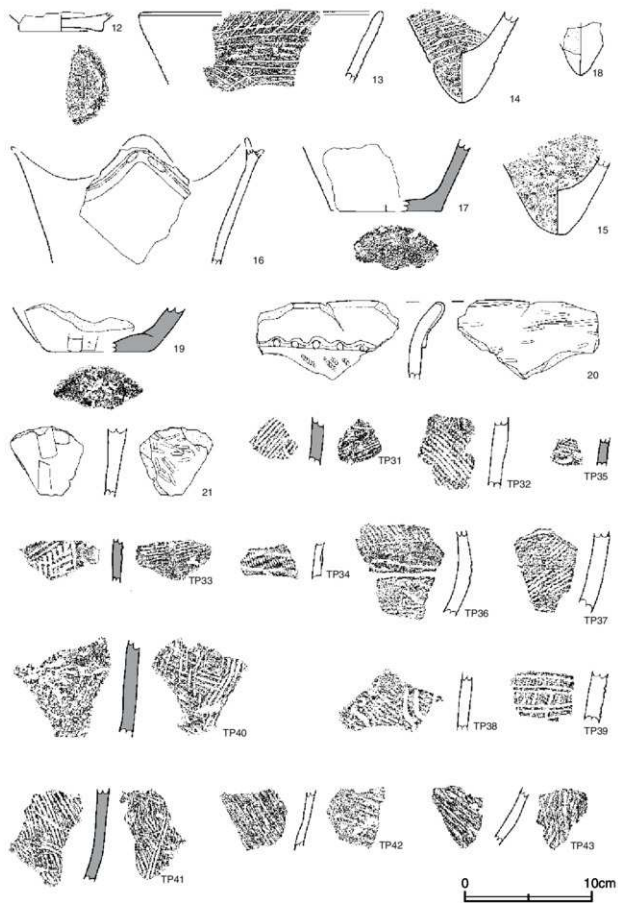
- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・細礫微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・黒色土ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 炭化物中量、焼土ブロック・ローム粒子少量
- 4 明 褐色 ロームブロック・細礫少量、炭化粒子極微量
- 5 明 褐色 ロームブロック少量

第 57号土坑土層解説

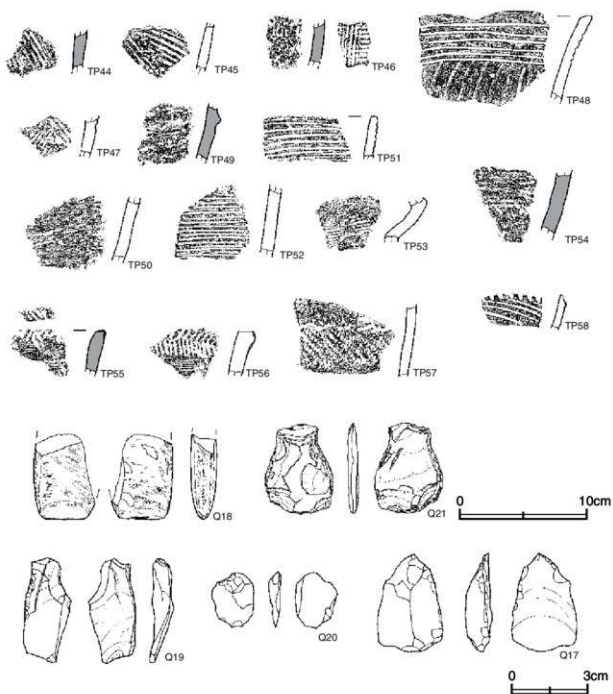
- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック・細礫少量、炭化物・焼土粒子微量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック・細礫少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック・細礫中量、焼土粒子・炭化粒子微量

第 58号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 礫少量、ロームブロック微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック・細礫微量



第28図 縄文時代土坑出土遺物実測図(1)



第29図 縄文時代土坑出土遺物実測図(2)

第6号土坑出土遺物観察表(第28図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP31	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色 炭粒子・黒炭	橙	外・内面磨面状工具による沈線	覆土中	

第7号土坑出土遺物観察表(第28図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP32	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色 炭粒子・黒炭	にぶい黄橙	LRの半筋縄文	底面	PL7
TP33	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色炭粒子・ 針状炭粒・黒炭	橙	沈線区画内に刺突文	覆土中	PL7
TP34	縄文土器	深鉢	長石・石英・黒色炭粒子	にぶい黄橙	隆帯貼付→隆帯部刺突文	覆土中	PL7

第9号土坑出土遺物観察表(第28図)

番号	種別	器種	胎土				色調	文様の特徴ほか		出土位置	備考
T725	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・織織				暗赤褐	外面条痕文		覆土中	

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
Q 17	スラレ イロー	39	26	1.1	9.30	ホルンフェルス		四面押圧刷摩	覆土中	
Q 18	磨製石斧	(6.8)	(4.8)	2.0	(117.1)	緑泥片岩		全面に推痕	覆土中	PL8

第10号土坑出土遺物観察表(第28図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
12	縄文土器	深鉢	-	(1.5)	(6.5)	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい	普通	内面ナデ	覆土中	5%

第14号土坑出土遺物観察表(第28図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
13	縄文土器	深鉢	[18.8]	(5.7)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁上部斜位の沈線、下部斜位縦線、胴部3条の腰面状工具による斜位の沈線	覆土中層	5% PL6
14	縄文土器	矢込土器	-	(7.2)	-	長石・石英	にぶい	普通	外面3条の腰面状工具による横位の沈線	覆土中層	5% PL6

第15号土坑出土遺物観察表(第28図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
15	縄文土器	矢込土器	-	(6.0)	-	長石・石英	にぶい	普通	無文	覆土中層	5% PL6

第19号土坑出土遺物観察表(第28図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
16	縄文土器	深鉢	-	(9.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい	普通	波状口縁 隆帯胎付	覆土下層	5% PL6

番号	種別	器種	胎土				色調	文様の特徴ほか		出土位置	備考
TP96	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母				にぶい	黄橙	沈瀬区画内に縄文	覆土上層	
TP97	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母					赤褐	LRの半筋縄文	覆土中層	
TP98	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母					明褐	沈瀬区画内に縄文	覆土中	
TP99	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母					黒褐	外面条痕文	覆土中層	

第28号土坑出土遺物観察表(第28・29図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
17	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	(8.7)	長石・石英・雲母・織織	明赤褐	普通	無文	底面	5%

番号	種別	器種	胎土				色調	文様の特徴ほか		出土位置	備考
TP40	縄文土器	深鉢	長石・石英・黒色粒子・細粒、織織				灰黄褐	外面無文 内面条痕文		底面	
TP41	縄文土器	深鉢	長石・石英・黒色粒子・織織				橙	外・内面条痕文		覆土下層	
TP42	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・針状炭素				にぶい	外・内面条痕文		底面	
TP43	縄文土器	深鉢	長石・石英・黒色粒子				橙	外・内面条痕文		覆土下層	
TP44	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子・細粒、織織				明赤褐 にぶい	外面条痕文		覆土下層	
TP45	縄文土器	深鉢	長石・石英				にぶい	外面条痕文		底面	
TP46	縄文土器	深鉢	長石・石英・黒色粒子・細粒、織織				にぶい	外面無文 内面条痕文		覆土中層	
TP47	縄文土器	深鉢	長石・石英				明赤褐	外面条痕文		覆土中層	

第30号土坑出土遺物観察表(第29図)

番号	種別	器種	胎土		色調	文様の特徴ほか			出土位置	備考
TP48	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子		にぶい	口縁部横位の条痕文	体部縦位の条痕文		覆土中層	PL7
TP49	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維		にぶい	外面摩耗により調整不明瞭	隆帯貼付		覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q 19	湖片	4.1	1.9	0.9	4.86	チャート	縦長湖片	一部押圧剥離痕が見られる		覆土中	

第33号土坑出土遺物観察表(第28・29図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか		出土位置	備考
18	縄文土器	矢形土器	～	(42)	～	長石・石英・雲母・黒色粒子・繊維	明赤褐色	良好	無文		覆土中	5% PL6

番号	種別	器種	胎土		色調	文様の特徴ほか			出土位置	備考
TP50	縄文土器	深鉢	長石・石英		赤褐色	外面条痕文			底面	

第37号土坑出土遺物観察表(第29図)

番号	種別	器種	胎土		色調	文様の特徴ほか			出土位置	備考
TP51	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母		にぶい赤褐色	口縁部付近横位の条痕文			覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q 20	湖片	2.2	1.7	0.5	1.28	チャート	縦長湖片			覆土中	

第38号土坑出土遺物観察表(第28・29図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか		出土位置	備考
19	縄文土器	深鉢	～	(38)	[7.8]	長石・石英・雲母・繊維・繊維	橙	普通	無文	体部外面下端ケズリ	覆土中	3%

番号	種別	器種	胎土		色調	文様の特徴ほか			出土位置	備考
TP52	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母		にぶい	横位の条痕文			覆土中	
TP53	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母		赤褐色	単筋横文			覆土中	

第39号土坑出土遺物観察表(第29図)

番号	種別	器種	胎土		色調	文様の特徴ほか			出土位置	備考
TP54	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維		にぶい	外面条痕文			覆土中	

第49号土坑出土遺物観察表(第29図)

番号	種別	器種	胎土		色調	文様の特徴ほか			出土位置	備考
TP55	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子・繊維		にぶい赤褐色	外面条痕文	口唇部キザミ		覆土中	PL7
TP56	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子		橙	外面条痕文	隆帯部矢羽状のキザミ		覆土中	PL7

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q 21	打製石斧	7.2	5.5	0.9	49.3	ホルンフェルス	刃部押圧剥離			覆土中	

第50号土坑出土遺物観察表(第28・29図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか		出土位置	備考
20	縄文土器	深鉢	～	(6.3)	～	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	胎行口縁 下部キザミ	体部LRの単筋横文 内面ミギキ	覆土中	5% PL6

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TF57	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子・細礫	灰黄緑	RLの単胎縄文	覆土中	

第51号土坑出土遺物観察表(第28・29図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
21	縄文土器	深鉢	-	(54)	-	長石・石英・細礫	にぶい黄橙	良好	体部外面ケズリ 内面ミガキ	覆土中	3%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TF58	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	にぶい黄橙	上部斜交文 下部斜位の沈線	覆土中	

表5 縄文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
6	A29	-	円形	1.05 × 0.88	30	平皿	縦斜	自然	縄文土器	
7	A26	N - 41° - E	楕円形	0.99 × 0.83	68	平皿	外傾	人為	縄文土器・剥片	
8	B206	-	[円形]	(0.50) × 0.46	28	皿状	外傾	自然	縄文土器・剥片	
9	B28	N - 76° - W	楕円形	1.75 × 1.06	54	平皿	外傾	自然	縄文土器・修整石片・剥片	
10	B26	N - 75° - W	楕円形	0.93 × 0.81	23	平皿	外傾	自然	縄文土器	SK11→本跡
11	B26	-	[円形]	0.82 × (0.79)	47	平皿	外傾	自然	縄文土器	本跡→SK10
14	B27	N - 23° - W	楕円形	1.14 × 0.97	57	平皿	外傾	自然	縄文土器	
15	B27	N - 65° - E	不整楕円形	1.70 × 0.73	45	平皿	外傾	自然	縄文土器	
19	B2h1	N - 67° - E	不整楕円形	3.55 × 2.60	100	平皿	外傾	人為	縄文土器	本跡→S13
28	A27	N - 84° - E	[不整楕円形]	2.20 × (1.56)	60	平皿	外傾	自然	縄文土器	
30	B2c3	N - 56° - E	楕円形	2.60 × 1.59	58	平皿	外傾	人為	縄文土器・剥片	
32	B2k0	N - 70° - E	楕円形	1.14 × 0.75	18	平皿	外傾	自然	-	
33	B2b4	N - 33° - W	隅丸長方形	1.28 × 0.84	22	平皿	外傾	自然	縄文土器	
37	B2b0	N - 62° - W	不整楕円形	2.45 × 1.55	64	皿状	外傾	人為	縄文土器・剥片	
38	B2b9	N - 14° - W	不整楕円形	2.84 × 1.96	60	平皿	外傾	人為	縄文土器	
39	B2b8	N - 65° - W	楕円形	1.72 × 1.48	68	皿状	縦斜	人為	縄文土器	
49	B2p0	N - 53° - W	楕円形	1.43 × 0.83	24	平皿	外傾	人為	縄文土器・打撃石片	
50	B2g5	N - 3° - W	楕円形	1.33 × 0.92	83	平皿	直立	人為	縄文土器	
51	B2k6	N - 82° - E	楕円形	0.90 × 0.65	60	皿状	外傾	自然	縄文土器	
57	C2e9	N - 22° - W	[楕円形]	(0.67) × 0.58	28	皿状	外傾	自然	-	本跡→S12
58	B3d1	N - 70° - E	楕円形	0.58 × 0.50	32	平皿	外傾	人為	縄文土器・剥片	

2 その他の遺構と遺物

時期不明の遺構として、道路跡1条、土坑21基、ピット群1か所を確認した。以下、特徴的なものについてのみ記述し、それ以外のものは平面図と土層解説のみを掲載する。

(1) 道路跡

第1号道路跡(第30・39図)

位置 調査区北東部のA2丁区からB3a1区にかけて、標高110.4～111.4mの斜面地の緩斜面部に位置している。

重複関係 第25号土坑に掘り込まれている。

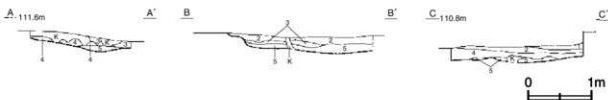
規模と形状 東西方向に直線的に約17m延びている。硬化面を1面確認した。

覆土 5層に分層できる。第1～4層は斜面上部から流出した堆積土である。第5層が硬化している。

土層解説

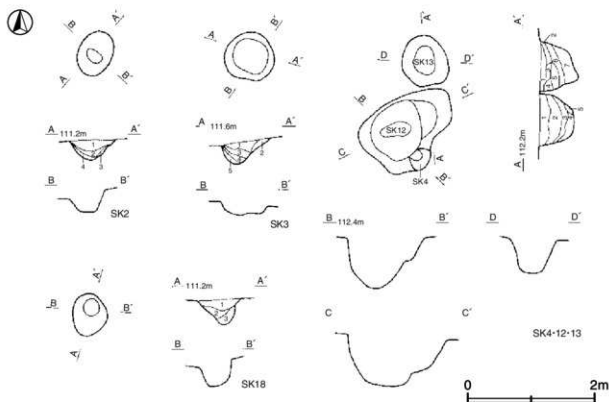
- | | | | |
|-------|------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子極微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、鹿沼パミス微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | | |

所見 時期は、遺物の出土がなかったことから不明である。斜面地の縁辺に地形に沿う形で確認できた。硬化面は1面しか確認できなかったことから、山道として一時的な利用であったと推測される。

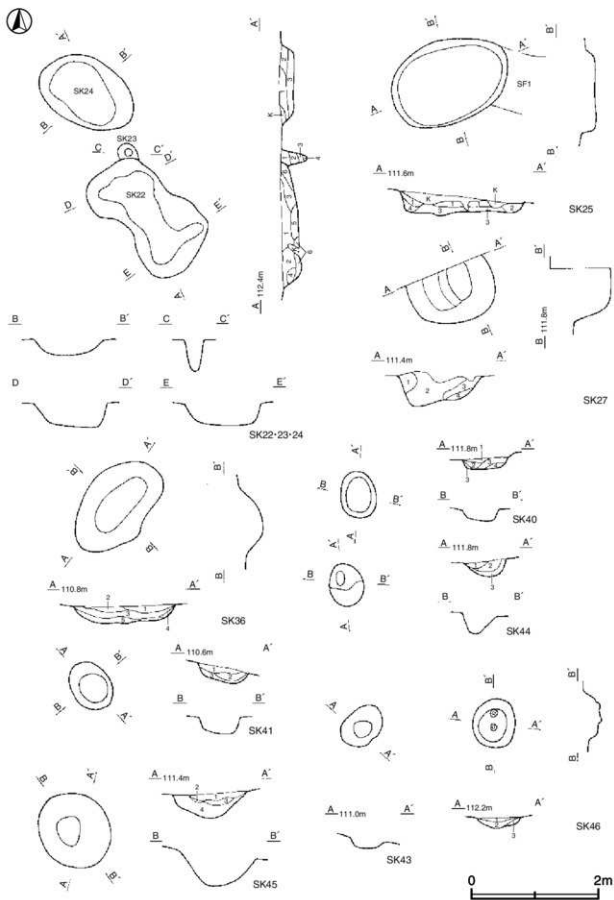


第30図 第1号道路跡土層断面図

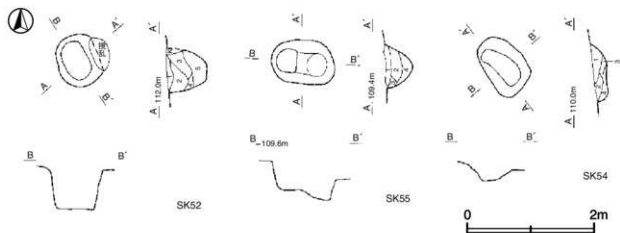
(2) 土坑



第31図 その他の土坑実測図 (1)



第32図 その他の土坑実測図(2)



第33図 その他の土坑実測図(3)

第2号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量(絡まり弱)
- 4 褐 色 ロームブロック少量

第3号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量(粘性弱)
- 2 明 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 褐 色 ロームブロック中量

第12号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極微量
- 2 にふい褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 明 褐色 ロームブロック少量
- 4 橙 色 ロームブロック少量、鹿沼パミス極微量
- 5 橙 色 ロームブロック少量、鹿沼パミス微量

第13号土坑土層解説

- 1 明 褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 2 にふい褐色 ロームブロック・炭化粒子・鹿沼パミス少量
- 3 橙 色 ロームブロック・鹿沼パミス少量
- 4 橙 色 ロームブロック少量、炭化物・鹿沼パミス微量
- 5 橙 色 ロームブロック微量
- 6 にふい褐色 ロームブロック中量
- 7 にふい褐色 ロームブロック中量、礫微量

第18号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量
- 2 褐 色 ローム粒子少量
- 3 褐 色 ロームブロック粒子微量

第22号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 4 黒 褐色 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 5 黒 炭化物中量、ロームブロック少量
- 6 にふい褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第23号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 にふい褐色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック中量
- 4 にふい褐色 ローム粒子中量、礫微量

第24号土坑土層解説

- 1 にふい褐色 炭化物少量、ロームブロック微量
- 2 にふい褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック・炭化物少量

第25号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量、炭化物・鹿沼パミス微量
- 2 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 4 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第27号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量、黒色土ブロック微量
- 4 褐 色 ロームブロック少量

第36号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子少量(絡まり弱)
- 3 褐 色 ロームブロック少量
- 4 褐 色 ローム粒子少量
- 5 にふい褐色 ロームブロック少量

第40号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック微量、炭化粒子極微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子少量、鹿沼パミス極微量
- 4 褐 色 ロームブロック中量

第41号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子極微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量、焼土粒子極微量
- 3 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

第44号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子極微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量

第45号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 褐 色 ローム粒子少量
- 3 黒 褐色 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量
- 4 褐 色 ロームブロック少量

第 46 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 明 褐色 ロームブロック少量・細礫塵微量

第 52 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量・鹿沼パミス微量
- 4 明 褐色 鹿沼パミス中量・ローム粒子少量
- 5 にぶい褐色 ロームブロック少量

第 54 号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 黒色土ブロック少量・ロームブロック微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・黒色土ブロック微量
- 3 黒 褐色 黒色土ブロック中量・ローム粒子少量
- 4 褐 色 ロームブロック少量

第 55 号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量・細礫微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 3 黒 褐色 炭化物中量・焼土ブロック・ローム粒子少量
- 4 褐 色 ロームブロック・細礫少量・炭化粒子微量

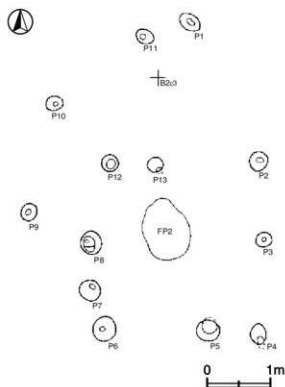
表 6 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
2	B2d1	N-29°-E	楕円形	0.72×0.55	31	平坦	外傾	自然	-	
3	B2d1	-	円形	0.80×0.79	33	圓状	緩斜	自然	-	
4	B2d6	N-47°-E	不整形円形	0.40×0.28	48	平坦	外傾	不明	縄文土器・銅片	SK12→本跡
12	B2d6	N-28°-E	不整形円形	1.61×0.86	54	平坦	外傾	自然	縄文土器	本跡→SK4
13	B2d6	N-28°-W	不整形円形	0.82×0.73	59	平坦	外傾	人為	-	
18	B2c1	N-8°-E	楕円形	0.70×0.57	42	平坦	直立	人為	銅片	
22	B2d5	N-40°-W	不整形円形	2.03×0.90	32	平坦	直立	人為	縄文土器	SK23→本跡
23	B2d5	N-18°-W	[楕円形]	0.35×0.30	49	平坦	直立	人為	縄文土器	本跡→SK22
24	B2d5	N-60°-W	楕円形	1.62×1.05	36	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
25	B2d8	N-62°-E	楕円形	1.95×1.31	32	平坦	外傾	人為	縄文土器	SF1→本跡
27	B2d4	-	[楕円形]	1.37×0.87	54	圓状	外傾	人為	縄文土器	
36	B2d9	N-43°-E	楕円形	1.71×1.08	30	平坦	緩斜	自然	縄文土器	
40	B2g7	N-3°-E	楕円形	0.73×0.56	39	平坦	外傾	自然	縄文土器	
41	B2d9	N-38°-W	楕円形	0.81×0.64	28	平坦	外傾	人為	-	
43	B2d5	N-67°-E	不整形円形	1.00×0.77	18	平坦	直立	不明	-	TP4と重複
44	B2h7	N-12°-W	楕円形	0.68×0.55	32	平坦	外傾	自然	-	
45	B2f7	N-37°-W	楕円形	1.27×1.11	54	圓状	緩斜	人為	-	
46	B2g5	N-4°-E	楕円形	0.77×0.68	23	凹凸	緩斜	人為	-	
52	B2g4	N-19°-W	[楕円形]	0.89×0.665	64	平坦	直立	人為	縄文土器	
54	B2d9	N-41°-W	楕円形	0.96×0.65	23	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
55	C2d8	N-4°-E	楕丸長方形	1.00×0.70	43	圓状	外傾	人為	-	

(3) ビット群

第 1 号ビット群 (第 34 図)

調査区 B 2 b3 区から B 2 d3 区の標高 1116 ~ 1121 m にかけての斜面地の緩斜面部で、東西 4.00 m、南北 5.40 m の範囲から柱穴状のビット 13 か所を確認した。平面形は直径 21 ~ 41 cm の円形または楕円形で、深さは 27 ~ 72 cm である。時期と性格はともに不明である。



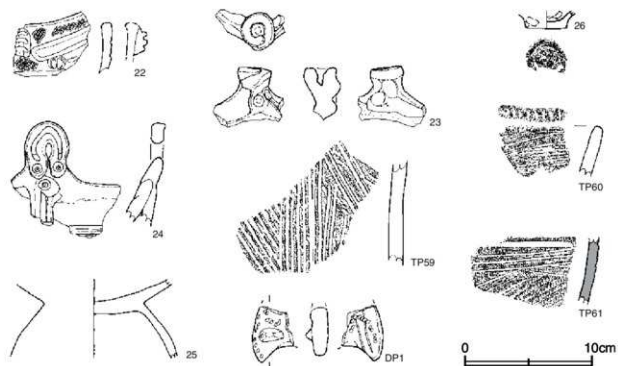
第34図 第1号ピット群実測図

表7 第1号ピット群計測表

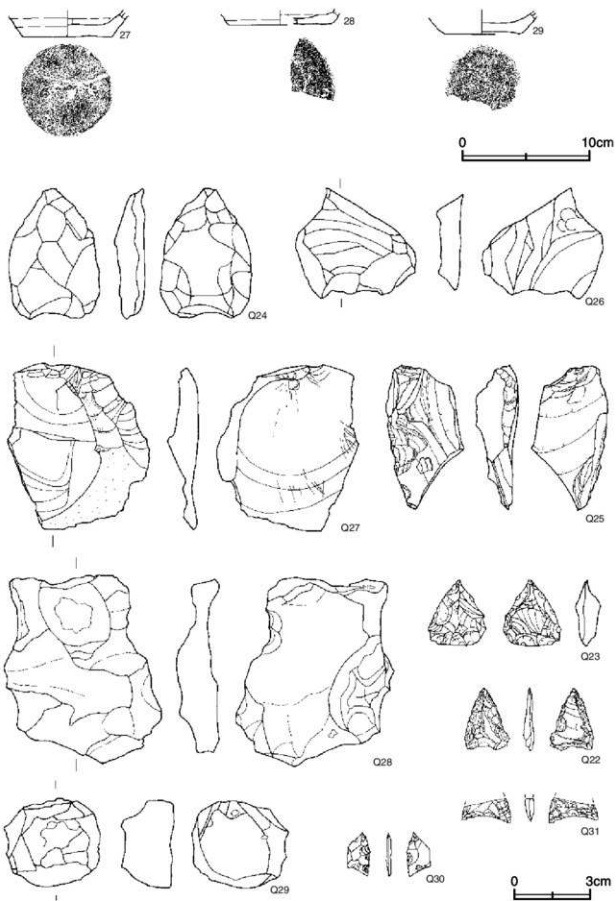
ピット番号	位置	平面形	規模 (cm)	
			長軸 (径) × 短軸 (径)	深さ
1	B2b	楕円形	36 × 23	28
2	B2c	楕円形	33 × 30	32
3	B2c	円形	25 × 24	37
4	B2d	楕円形	32 × 25	65
5	B2d	円形	37 × 35	55
6	B2c	円形	41 × 38	42
7	B2c	円形	35 × 34	29
8	B2c	楕円形	37 × 33	47
9	B2c	円形	26 × 25	27
10	B2c	楕円形	26 × 21	27
11	B2d	楕円形	31 × 23	49
12	B2c	円形	25 × 25	32
13	B2c	楕円形	25 × 22	72

(4) 遺構外出土遺物

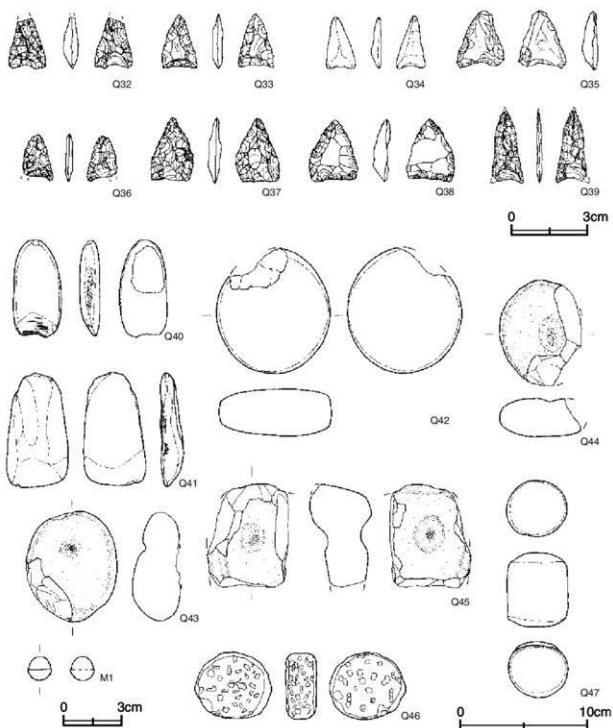
遺構に伴わない遺物について、特徴的なものを実測図 (第35～37図) 及び観察表で掲載する。



第35図 遺構外出土遺物実測図 (1)



第36图 遺構外出土遺物実測図(2)



第37図 遺構外出土遺物実測図(3)

遺構外出土遺物観察表(第35～37図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
22	縄文土器	深鉢	-	(5.0)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい・黄褐色	普通	RLの単純縄文→陸帯陥付→磨り消し文	表土	2% PL6
23	縄文土器	深鉢	-	(4.7)	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい・黄褐色	普通	底面部に突起と沈痾を有する円柱状の突出を伴出 陸帯文	表土	2% PL6
24	縄文土器	深鉢	-	(9.1)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい・黄褐色	良好	陸帯と沈痾、刺突文による裝飾把手	表土	3% PL6

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法・文様の特徴ほか	出土位置	備考
25	縄文土器	台付土器	-	(66)	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	無文	表土	20%
26	縄文土器	レチユフ	-	(14)	32	長石・石英・針状鉄燐	にぶい褐色	不負	外面指頭痕 内面棒状工具によるナデ	表土	25%
27	須恵器	坏	-	(21)	7.1	長石・石英	黄灰	普通	底部へラ切り長ナデ	SK54	15%
28	須恵器	坏	-	(11)	(8.0)	長石・石英・燧石	灰	普通	底部回転へラ切り	S11	15%
29	土師器	甕	-	(18)	6.0	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄褐色	普通	摩耗により調整不明	SK17	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特征ほか	出土位置	備考
TP59	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐色	口唇部キザミ・体部外面横位の条痕文	表土	
TP60	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	半軌竹管による沈線文	表土	
TP61	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・燧石	赤褐色	3本の楕円状工具による斜位の沈線 下半具段腹線痕文	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 1	土偶	(4.4)	(3.3)	1.8	(17.9)	長石・石英・雲母	表面隆帯による突起筋付け→半軌竹管による刺突文 表面文条の沈線と一部半軌竹管による刺突文	表土	PL7

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 22	石皿	2.4	1.8	0.4	1.70	チャート	両面押圧磨蝐	表土	PL8
Q 23	尖頭器	2.6	2.3	1.0	4.68	チャート	両面押圧磨蝐	表土	PL8
Q 24	尖頭器	5.1	3.6	1.2	23.7	ホルンフェルス	両面押圧磨蝐	表土	PL8
Q 25	スライパー	5.7	3.1	1.7	20.5	チャート	両面押圧磨蝐	表土	
Q 26	割片	4.8	4.4	0.9	16.1	頁岩	横長割片	表土	
Q 27	割片	6.6	5.6	1.4	44.9	頁岩	縦長割片 打痕あり	表土	
Q 28	石核	7.5	6.2	1.7	80.6	瑪瑙	一部加工痕が残る	表土	
Q 29	石核	3.9	3.5	2.0	36.0	瑪瑙	一部結晶部分が残る	表土	
Q 30	石皿	1.8	0.9	0.2	0.29	瑪瑙	両面押圧磨蝐	表土	PL8
Q 31	石皿	(1.0)	2.0	0.3	(0.50)	チャート	上部欠損 両面押圧磨蝐	表土	
Q 32	石皿	(2.0)	1.5	0.6	(1.38)	チャート	先端部欠損 両面押圧磨蝐	表土	PL8
Q 33	石皿	2.2	1.4	0.4	1.06	チャート	両面押圧磨蝐	表土	PL8
Q 34	石皿	2.0	1.2	0.4	0.43	トロトロ石	両面押圧磨蝐*	表土	PL8
Q 35	石皿	2.3	1.9	0.6	2.14	チャート	未製品* 片面押圧磨蝐	表土	PL8
Q 36	石皿	1.9	(1.2)	0.3	(0.59)	チャート	両面押圧磨蝐 脚部欠損	表土	PL8
Q 37	石皿	2.5	1.7	0.6	1.92	チャート	両面押圧磨蝐	表土	PL8
Q 38	石皿	2.5	2.0	0.7	2.94	チャート	両面押圧磨蝐	表土	PL8
Q 39	石皿	2.8	(1.2)	0.2	(0.74)	チャート	両面押圧磨蝐 先端部・脚部欠損	表土	PL8
Q 40	磨製石斧	7.7	3.8	1.7	(68.3)	緑泥片岩	刃部・側面磨蝐 刃部使用による欠け	表土	PL8
Q 41	磨製石斧	9.0	5.0	1.8	116.8	片麻岩	刃部・側面磨蝐	表土	PL8
Q 42	磨石	(9.9)	9.1	3.7	(47.4)	凝灰岩	使用面2面	表土	
Q 43	凹石	(8.6)	7.1	3.8	(31.9)	泥岩	凹面1か所	表土	PL8
Q 44	凹石	(8.4)	(6.5)	3.0	(21.3)	泥岩	凹面1か所	表土	
Q 45	凹石	(8.1)	(6.3)	(4.9)	(32.0)	泥岩	凹面2か所	表土	PL8
Q 46	不明	6.1	5.2	2.4	100.0	凝灰岩	円柱状	表土	
Q 47	不明	5.9	4.8	4.4	146.4	凝灰岩	俵状	表土	PL8

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	碧玉	1.2	1.2	1.2	10.6	碧玉	中心部融ぎ合わせの痕跡	表土	

第4節 ま と め

1 はじめに

今回の調査により、縄文時代の竪穴住居跡3軒、炉跡7基、陥し穴6基、土坑21基、時期が限定できない道路跡1条、土坑21基、ピット群1か所を確認した。ここでは、当遺跡の中心となる縄文時代の遺構について若干の考察を行う。

2 遺構と集石について

(1) 住居跡

調査区北西部の斜面地平坦部に2軒、南部の緩斜面地に1軒を確認した。第1・2号住居跡が後期、第3号住居跡は中期末葉と考えられる。北西部の住居跡はいずれも調査区域外に延びており、詳細な規模と形状は分からない。住居内施設は、如か確認できたものは第2号住居跡のみである。炉は地床炉で、明確な火床面は残存していない。柱穴は第1・2号住居跡で確認でき、いずれも円形に配置されている。

(2) 炉跡

7基を確認した。いずれも丘陵地の平坦部から傾斜し始める111～112mのライン上に、ほぼ円形に配置されている。特に第5号炉跡は、形状がフラスコ状になっており焼土や炭化物が覆土中に混じっている。その中にチャートの剥片や石炭、周辺にはチャートの原石などが多数確認できたことから、石器を製作する際にチャートなどの原石を熱を利用して加工していた可能性が考えられる。

(3) 陥し穴

6基を確認した。いずれも丘陵地の平坦部から傾斜し始める111～111.5mのライン上に、2基が並列している。同様な形で配置がみられる武田石高遺跡では、規則性が認められる分布をⅠ型（2基の対の配置）、ⅡA型（3基以上の配置で、遺構の間隔が10m以上の疎らな配置）、ⅡB型（3基以上の配置で、遺構の間隔が10m未満の密な配置）と分類している¹⁾。この分類に当てはめるとすれば、当遺跡の陥し穴は2基を一つの単位として配列されていることから、武田石高遺跡のⅠ型に属するものと考えられる。

(4) 集石

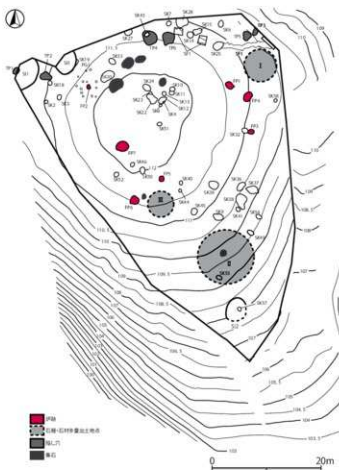
北部と南部斜面部に大形の礫を点々と確認した（第38図参照）。ここで確認できた礫は、砂岩系、ホルンフェルスを少量含むもので、泥岩の可能性のある石材が含まれている。確認した集石の礫は、破砕されたような大きな岩石や細かい礫があること、石材が砂岩・泥岩系のものであること（他種がないこと）、テストピットで確認された土層に礫が混じる層が広範囲であることなどから、自然礫と判断できる²⁾。以上のことから、これらの礫は大雨や土石流で付近の高い地層から滑り落ちてきたものが、窪地に堆積したもので人工的なものではないと考えられる。

3 遺物について

本調査前に水戸市教育委員会が行った試掘調査で出土している土器は、早期と中期前半のものが主体であると報告されている³⁾。今回の調査で確認した土器は大半が小破片で、完形で出土したものは第2号住居跡の浅鉢1点のみである。その内容は、繊維土器や条痕文土器、尖底土器などの早期の土器、前期とみられる土器片のほか、称名寺式・加曾利式土器とみられる後期の土器といった破片が確認できる。水戸市教育委

員会の試掘調査資料を含め、今回の調査で出土した土器が晩期に比定できるものも存在することから、遺物の時期は早期から晩期といった広い時期にわたるものである。

その他として、多数のチャート(剥片 147点・521.8g、原石 20点・2723g)・瑪瑙(剥片 7点・167g)・黒曜石(6点・7.1g)・頁岩(4点・42g)・石英(4点・89g)といった石材の剥片や石鏃が多数出土している。遺構に伴って出土しているものは少なく、そのほとんどが表土中もしくはローム面付近からの出土である。その中でも、I～IIIの円範囲とその周辺で多く出土している(第38図参照)。石材の出土傾向は、Iの範囲では黒曜石が、IIの範囲ではチャート・瑪瑙が、IIIの範囲ではチャートが多く見られるといった特徴がある。特にIIIの範囲に隣接して第5・6号炉跡が確認でき、炉内から出土している剥片がチャートであることから、当遺構を利用した石器加工が行われていた可能性が考えられる。



第38図 遺構配置図

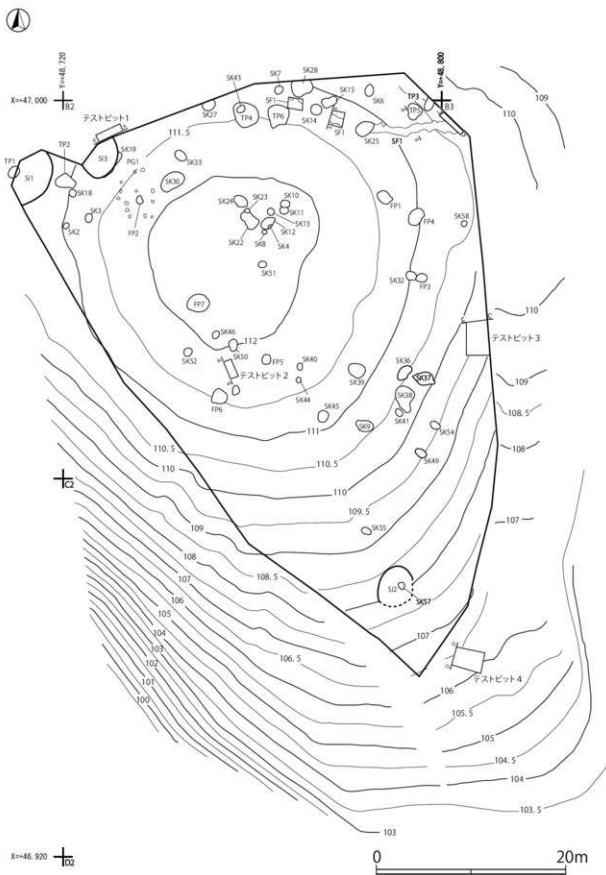
4 おわりに

当遺跡は、早期から後期まで幅広い時期の土器が確認できた。その他に、チャートや瑪瑙といった石材の剥片と石鏃などが多数出土することから、石器製作の場としても利用されていたものと考えられる。時期は晩期後葉になるが、第5号炉跡では、炉の内部や周辺にチャートなどの石材のほか、剥片などが多数出土していることから、炉を使用して石器加工を行っていた可能性が考えられる。

遺構は炉跡・陥し穴のほとんどが早期から前期、住居跡が中期末葉から後期といったほぼ2時期に分けることができる。早期から前期では、狩り場や石器製作の場として利用されていたものと推測される。その後、中期から後期にかけて近接する金荒井沢遺跡や小鍋遺跡といった遺跡で集落が形成されており、当遺跡の住居跡も集落としては住居軒数が3軒と少ないが、同時期に形成された集落で、狩り場から集落として生活の場へと変化していったものと考えられる。

註

- 1) 鈴木素行 加藤博文 長沼正樹 柴田徹 山本薫 高松武次郎「武田石高遺跡 旧石器・縄文・弥生時代編」〔財〕ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告 第15集 財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社 1998年1月
- 2) 産業技術研究所地質標本館内施設相談所相談員酒井氏のご教授による
- 3) 水戸市教育委員会作成の調査報告書による



第39図 新田遺跡遺構全体図

写 真 图 版



遺跡全景（北東から）



遺跡全景（上空から）

PL2



第1号住居跡
完掘状況



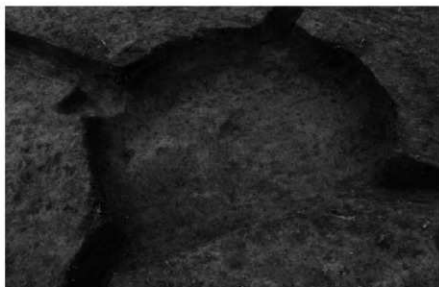
第2号住居跡
遺物出土状況



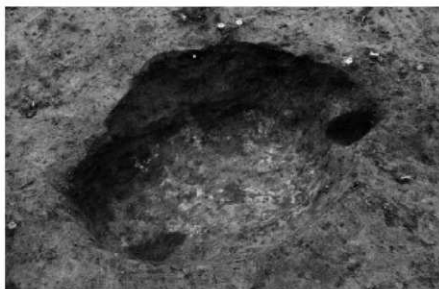
第2号住居跡
完掘状況



第3号住居跡
完掘状況



第1号炉跡
完掘状況

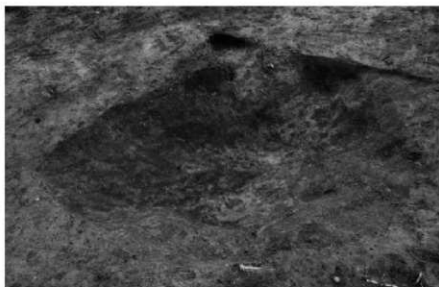


第2号炉跡
完掘状況

PL4



第 5 号 炉 跡
完 掘 状 況



第 7 号 炉 跡
完 掘 状 況

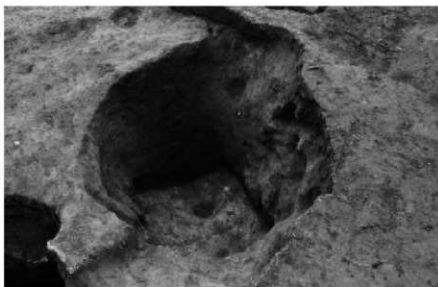


第 1 号 陥 し 穴
完 掘 状 況

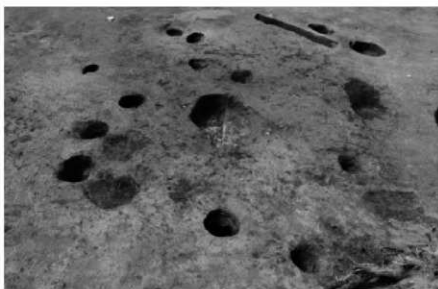
第3号陥し穴
完掘状況



第5号陥し穴
完掘状況

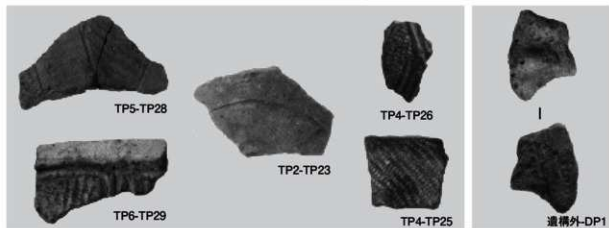
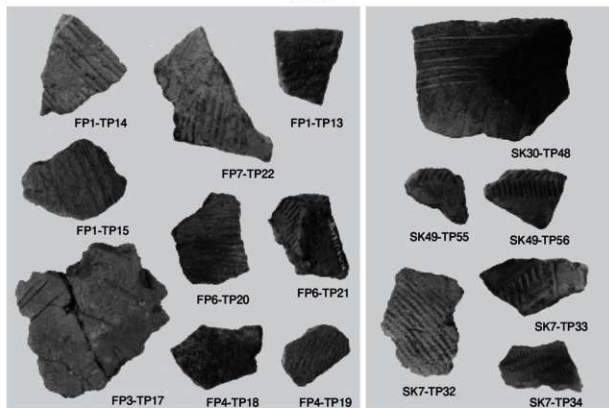
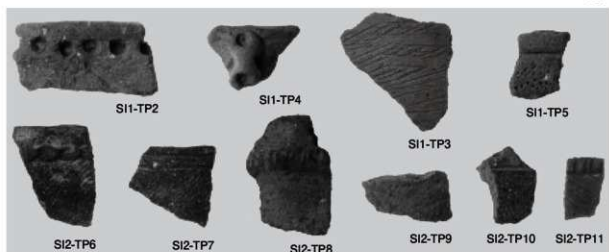


第1号ビット群
完掘状況





第1・2・3号住居跡，第5号炉跡，第2号陥し穴，第14・15・19・33・50号土坑，遺構外出土土器



第1・2号住居跡，第1・3・4・6・7号炉跡，第2・4～6号陥し穴，第7・30・49号土坑，遺構外出土土器・土製品



第2号住居跡，第1・5・6号炉跡，第2・3号陥し穴，第9号土坑，遺構外出土石器・石製品

抄 録

ふりがな	しんでんいせき							
書名	新田遺跡							
副書名	那珂川沿岸農業水利事業地内埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第353集							
著者名	前島直人							
編集機関	財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL(029)-225-6587							
発行日	2012(平成24)年3月16日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
新田遺跡	茨城県水戸市 全限町字新田 1366番地の7ほか	08201 - 212	36度 25分 22秒	140度 22分 37秒	108 ~ 112 m	20090501 ~ 20090731	2237.54 ㎡	那珂川沿岸農業水利事業(成沢吐水槽建設)に伴う事前調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
新田遺跡	集落跡 狩り場跡	縄文時代	堅穴住居跡 炉跡 陥し穴 土坑	3軒 7基 6基 21基	縄文土器(深鉢・浅鉢・異形台付土器) 石器・石製品(石鏃・石棒・石剣カ、磨製石斧・凹石・磨石・珠状耳飾)・剥片			
	その他	時期不明	道路跡 土坑 ピット群	1条 21基 1か所	土師器(坏・甕) 須恵器(坏) 土製品(土偶) 石器(石鏃・スクレイパー・磨製石斧・打製石斧・磨石)・剥片 金属製品(鉛玉)			
要約	<p>当遺跡は、縄文時代の集落跡・狩り場跡で、住居跡3軒は中・後期のものである。また、炉跡7基、陥し穴6基も確認でき、炉跡は標高111m付近にはほぼ円形に広がっている。陥し穴は、標高111mの斜面地縁辺部に広がって2基を1単位として東西軸のはば一列に並んでいる。</p> <p>石器では石鏃が多数出土しているほか、チャートや瑪瑙の剥片が200点余り確認できた。このことから、当遺跡は縄文時代早・前期には狩り場として利用され、中・後期になってから集落が形成された遺跡と考えられる。</p>							

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows XP Professional Version2002ServicePack3
	編集	Adobe InDesign CS4
	図版作成	Adobe Illustrator CS4
	写真調整	Adobe Photoshop CS4
	Scanning	6×7film Nikon SUPER COOLSCAN9000 図面類 EPSON GT-X750
使用Font	OpenType	リニューミンPro・L
写真	線数	モノクロ175線以上 カラー210線以上
印刷		印刷所へは、Adobe InDesign CS4でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第353集

新田遺跡

那珂川沿岸農業水利事業
地内埋蔵文化財調査報告書

平成24（2012）年 3月14日 印刷

平成24（2012）年 3月16日 発行

発行 財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 いばらき印刷株式会社

〒319-1112 那珂郡東海村村松3115-3

TEL 029-282-0370